

2023年3月

2022年度
「PROMISE 金融経済教育セミナー」
社会的インパクト評価報告書
—2コース比較—

SOCIAL VALUE
JAPAN

特定非営利活動法人ソーシャルバリュージャパン

「PROMISE 金融経済教育セミナー」 2022年度社会的インパクト評価サマリー

「PROMISE 金融経済教育セミナー」においては、2020年度及び2021年度社会的インパクト評価により主たるセグメントである高校生への既存事業がもたらす社会的インパクトが推計されている。2022年度社会的インパクト評価では、2022年度から新たに加わる、アクティブ・ラーニングを取り入れたアクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」と既存事業となる聴講集中型「PROMISE 金融経済教育セミナー」がもたらす効果の違いを検証した。本年度評価から得られた知見とプログラムへの提言の概要は、以下の通りである。

社会的インパクト評価から得られた知見

1. 事業実施による金融リテラシー向上の効果確認

- 客観的金融リテラシー（金融リテラシー・マップ分野）は、アクティブラーニング型セミナー、聴講集中型セミナー共に、セミナー受講による緩やかな向上が確認され、特に女子学生において高い効果が期待できる。
- 主観的金融リテラシーは、アクティブラーニング型セミナーの受講により、全ての属性においてスコアが向上しており、当該コースによる高い効果が期待できる。聴講集中型においては、女子学生への効果は確認できなかったが、男子学生においては聴講型セミナー受講による主観的金融リテラシー向上の効果が期待できる。

2. アクティブラーニング型実施によるインパクトの確認

- 資質・能力の育成プロセスは、聴講集中型セミナー受講によりスコアが緩やかに向上するのに対して、アクティブラーニング型では、「興味・関心」、「批判的思考力」、「外部知見の活用」を中心に大きくスコアが向上しており、アクティブラーニング型セミナー受講による高い効果が期待される。これは、学生が積極的に学び参加するアクティブラーニング型セミナーの受講が、金融経済分野に対する関心喚起や外部知見の活用の重要性を認識する契機となったと考えられ、アクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」の目的・手法とその効果に整合性があると考えられる。

プログラムへの提言

2022年度社会的インパクト評価の分析結果に基づいて、「PROMISE 金融経済教育セミナー」事業がさらなる社会的インパクトを創出するために、①継続的な社会的インパクト評価の実施、②効果の高い対象校への実施絞り込み、③プログラム・コンテンツの多様化、④セミナー満足度と学習意欲の喚起の両立について提言を行った。

目次

I. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」社会的インパクト評価 概要

1. 社会的インパクト評価検討の背景
2. 新学習指導要領における金融経済教育
3. 対象となる事業
4. 聴講型セミナーの想定されるロジックモデル
5. アクティブラーニング型セミナーの想定されるロジックモデル
6. 想定した評価指標
7. コンテンツの目的と評価指標の関係性
8. 社会的インパクト評価概要

II. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」社会的インパクト評価 分析

結果

(1) 定量分析の概要

9. 定量調査の実施概要
10. 質問票の構成

(2) 金融リテラシー

11. 金融リテラシーのセミナー受講による変化
12. 客観的金融リテラシー：性別による比較
13. 客観的金融リテラシー：学校属性による比較
14. 主観的金融リテラシー：性別による比較
15. 主観的金融リテラシー：学校属性による比較
16. 金融リテラシー・マップのセミナー受講による変化

(3) 行動特性・考え方

17. 行動特性・考え方のセミナー受講による変化

(4) 資質・能力の育成プロセス

18. 資質・能力の育成プロセスのセミナー受講による変化
19. 資質・能力の育成プロセス：性別による比較
20. コンテンツと評価指標との関係性

(5) 個別回答・インタビューからの定性分析

21. 個別の回答分析
22. インタビュー実施概要
23. インタビューから推測される変化

(6) 2021年度評価との比較

24. 2021年度社会的インパクト評価との比較

III. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」社会的インパクト評価 考察

25. 考察
26. 分析から得られた知見
27. 分析から得られた知見：ロジックモデル
28. 今後への提案

IV. Appendix

I . 「PROMISE 金融経済教育セミナー」
社会的インパクト評価概要

1. 社会的インパクト評価検討の背景

1. 検討の背景

新学習指導要領への対応

- 2022年4月から使用される高校の新学習指導要領では「生きる力」をテーマとし「持続可能な未来の創り手」の育成を目指しており、「生きる力」の1つとして家庭科では「家計管理」「リスク管理」「資産形成」「生涯計画」を軸に、金融経済教育が本格導入されている
- 学びのスタイルも従来の詰め込み型から探究型が重要視されており、セミナーコンテンツの Re Design が必要とされている

各コンテンツの社会的インパクトの整理

「PROMISE 金融経済教育セミナー」に対する2020年度及び2021年度社会的インパクト評価により、主たるセグメントである高校生への既存事業がもたらす社会的インパクトが推計されたが、2022年度から、アクティブ・ラーニングを取り入れたアクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」及び複数回で構成され幅広い分野を学ぶ体系型「PROMISE 金融経済教育セミナー」が加わることにより、ステークホルダーに対して、既存の聴講型セミナーとアクティブラーニング型セミナーがもたらす効果の違いについて整理が必要である

2. 2022年度の目的

- セミナー形式がもたらす効果の違いを検証する
- 効果的な事業設計についての示唆を獲得し、より効果的なコンテンツ開発につなげる

2-1. 新学習指導要領における金融経済教育

2022年度から使用される新学習指導要領では、以下のような金融経済教育の導入が求められている。

改訂の目的

出典：【総則編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 まえがき

今回の改訂は、平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申を踏まえ、

1. 教育基本法、学校教育法などを踏まえ、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、**生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成**することを目指す。その際、求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。
2. 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成とのバランスを重視する平成 21 年改訂の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。
3. 道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成することを基本的なねらいとして行った。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）「公民」

第1 公共 3 内容の取扱い

カ 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

(カ) (中略) 「金融の働き」については、金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に、金融を通じた経済活動の活性化についても触れること。

第3 政治・経済 2 内容 A 現代日本における政治・経済の諸課題

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

出典：高等学校学習指導要領（平成30年告示）P.83, P.87-88 ※一部抜粋

高等学校学習指導要領（平成30年告示）「家庭」

第1 家庭基礎 2 内容 C 持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画

ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。

イ 生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などに関連付けて考察すること。

第2 家庭総合 2 内容 C 持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 家計の構造について理解するとともに生涯を見通した生活における経済の管理や計画について理解を深めること。

イ 生涯を見通した経済の管理や計画の重要性について、ライフステージごとの課題や社会保障制度などに関連付けて考察し、工夫すること。

出典：高等学校学習指導要領（平成30年告示）P.183, P.186 ※一部抜粋

2-2. 新学習指導要領における金融経済教育（家庭科）

2022年度から使用される新学習指導要領では、家庭科において以下のような金融経済教育の本格導入が求められている。

家庭科で求められる「金融経済教育」

科目：C 持続可能な消費生活・環境

① 生活における経済の計画

ア 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。

収支バランス/リスク管理も踏まえた家計管理の基本/預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点

イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察すること。

ウ イについては、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること。

② 消費行動と意思決定

ア 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、生活情報を適切に収集・整理できること。

消費者問題発生の社会的背景/悪質商法、多重債務インターネットを通じた消費者被害/意思決定や契約の重要性/インターネットなどを通じた生活情報の適切な収集と整理

イ 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察し、工夫すること。

契約や消費者信用、多重債務問題など現代社会における課題/批判的思考に裏付けられた意思決定/ICTの活用

ウ 内容のCの（中略）（2）のアについては、多様な契約やその義務と権利について取り上げるとともに、消費者信用及びそれらをめぐる問題などを扱うこと。

③ 持続可能なライフスタイルと環境

出典：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編（文部科学省）※一部抜粋

3. 対象となる事業

2022年度から開始されるアクティブラーニング型及び聴講体系型「PROMISE 金融経済教育セミナー」に対して、社会的インパクト評価を行い、既存の聴講集中型との効果検証を行った。

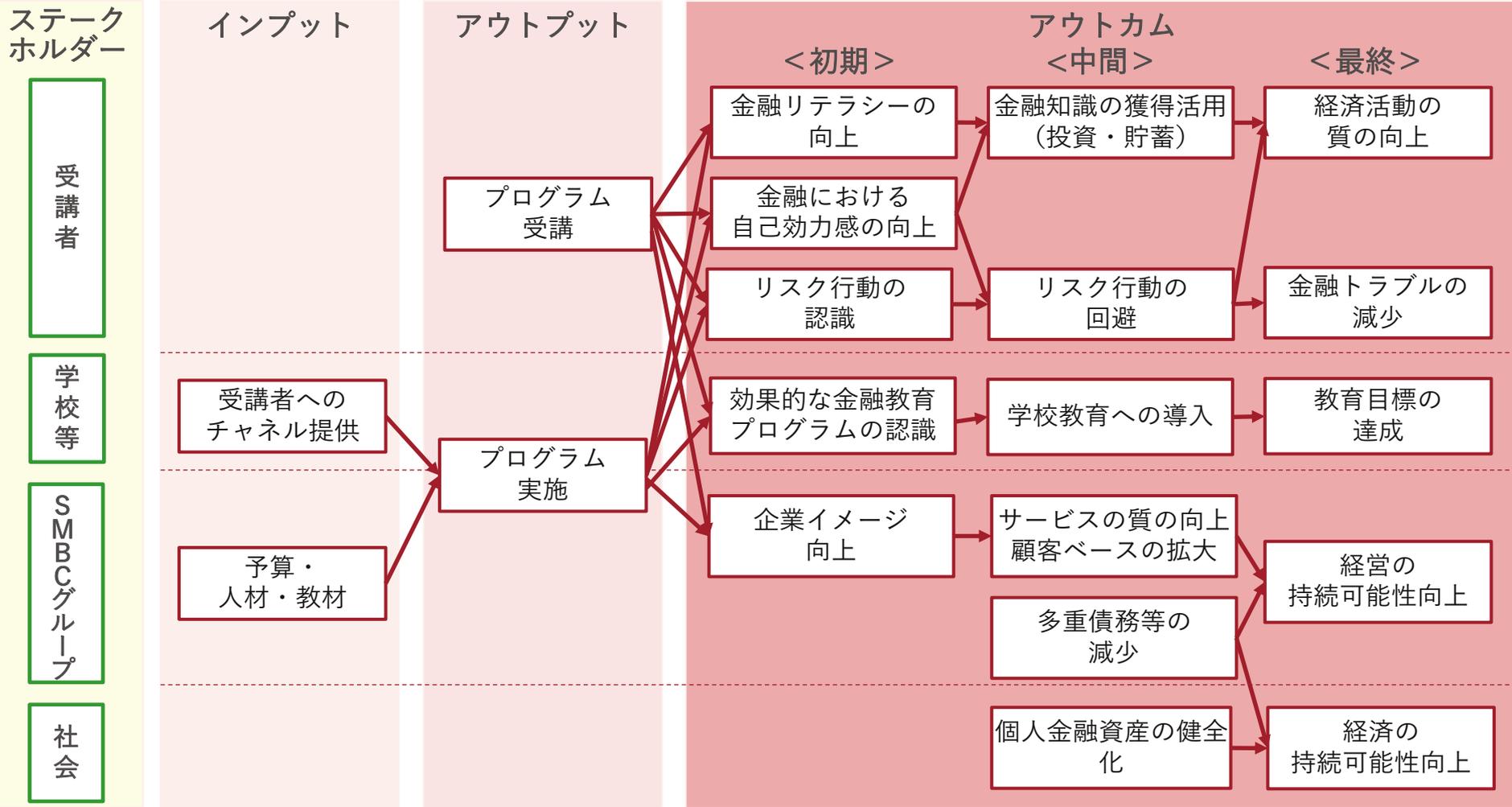
【アクティブラーニング型セミナーの一例】

◆新たな金融教育プログラム例

可変可	← 1コマ単発 →		← 1コマ単発 →		← 1コマ単発 →		← 1コマ単発 →	
	4コマ/1か月							
探究型 学習通 じて身 に付け る力	家計管理		家計管理		家計管理		家計管理	
	リスク管理		リスク管理		リスク管理		リスク管理	
					資産形成			
							生涯計画	
	1コマ目 お金を「かせぐ」方法と生活コストを考える		2コマ目 お金を「かりる」を考える		3コマ目 お金を「ふやす」を考える ※SMBCグループ各社と協働		4コマ目 人生をシミュレーションしてみる	
既存 コンテンツ 活用 協会 監修	座学 仕事の種類とその仕事における収入について知る、一般的な20代の生活コストを紹介		座学 ローンやクレジットについて学ぶ		座学 投資商品やNISA、保険商品等の金融商品について学ぶ		座学 様々な人生シミュレーションパターンとそのコストについて提示	
	ワーク 自分の10年後の支出をシミュレーション →家賃や食費家族や子供等を想像して算出		ワーク 40歳で3,000万の戸建てを立てるとしたら？ →どのくらいの収入や貯蓄、借入、返済期間が必要かを考える		ワーク 投資商品の種類を選び、投資額がどう増えるかシミュレーション →投資額10万円、月掛した5,000円がどう増える・貯まる		ワーク 人生シミュレーションを実施 →年収、結婚、投資、マイホーム等のライフイベントを意識して	
探求型学習 に即した 新 コンテンツ 制作	まとめ 座学とワークの振り返りや質疑応答		まとめ 座学とワークの振り返りや質疑応答		まとめ 座学とワークの振り返りや質疑応答		まとめ 発表や振り返り、質疑応答	
外部 有識 者								
受講成果は社会的インパクト評価を用いて検証し学びの伸長度を可視化								

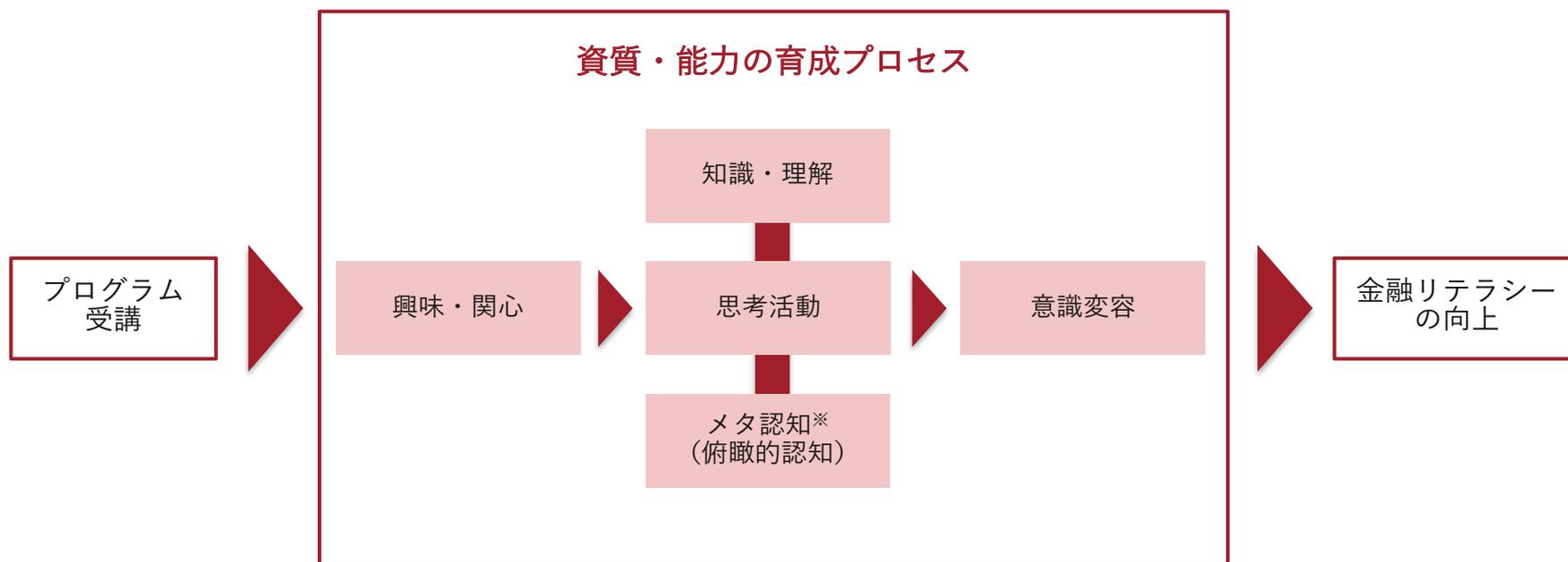
4. 聴講型セミナーの想定されるロジックモデル

先行研究やプログラム資料から、聴講型「PROMISE 金融経済教育セミナー」のロジックモデルとして、以下を想定した。



5-1. アクティブラーニング型セミナーの想定される ロジックモデル

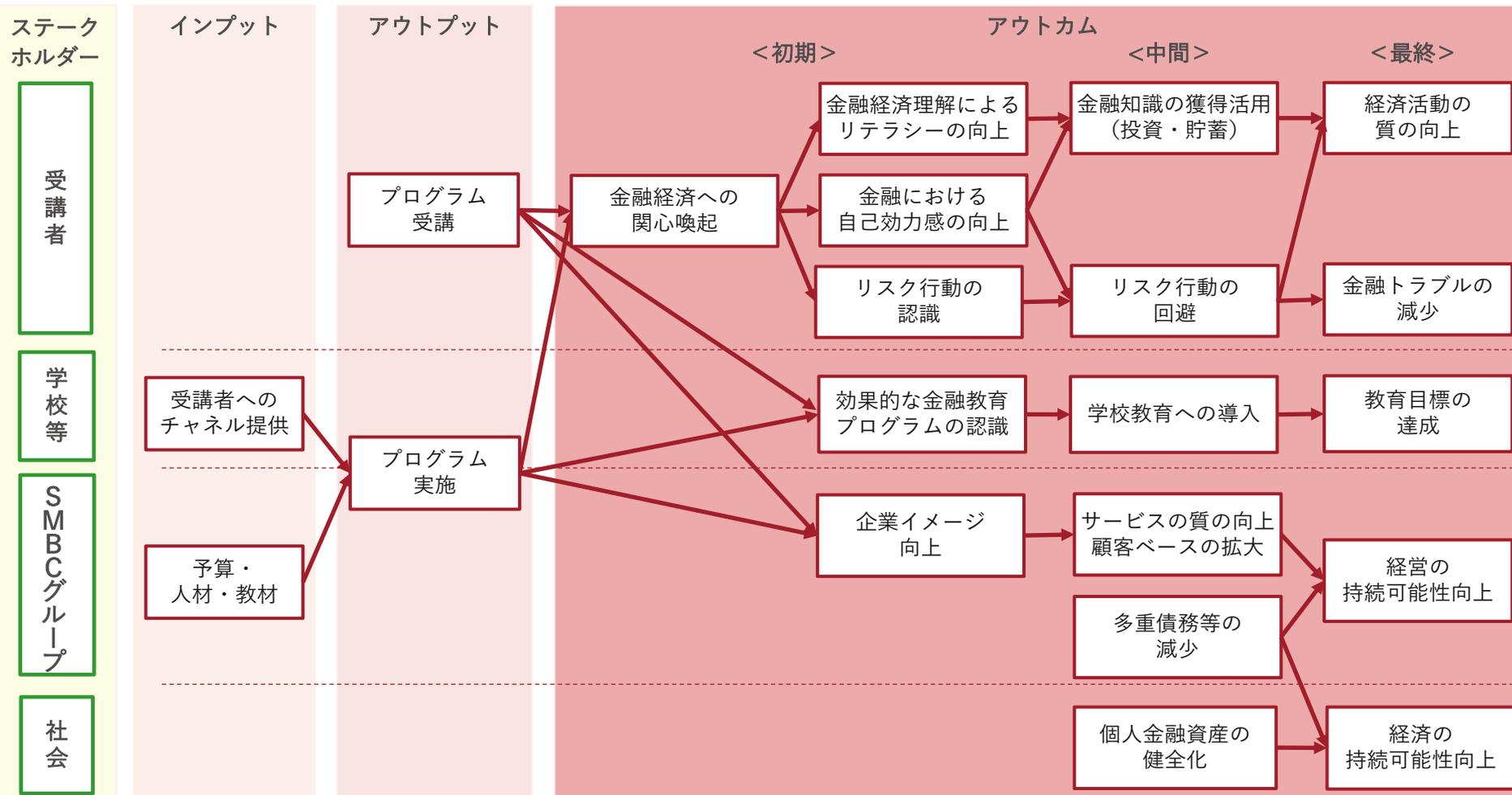
先行研究やプログラム資料、新学習指導要領改訂の目的から、アクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」のロジックモデルとして、2020年度から2021年度に作成したロジックモデルを基に、初期アウトカムである「金融リテラシーの向上」につながる「資質・能力の育成プロセス」を設定した。



(*)メタ認知とは、「自分が物事を認知している状態を客観的に認知している状態」を指し、現在進行中の自分の思考や行動そのものを対象化して、俯瞰的または多角的に認識することができる能力のことである

5-2. アクティブラーニング型セミナーの想定されるロジックモデル

アクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」のロジックモデルとして、2020年度から2021年度に作成したロジックモデルを基に、以下のロジックモデルを想定した。



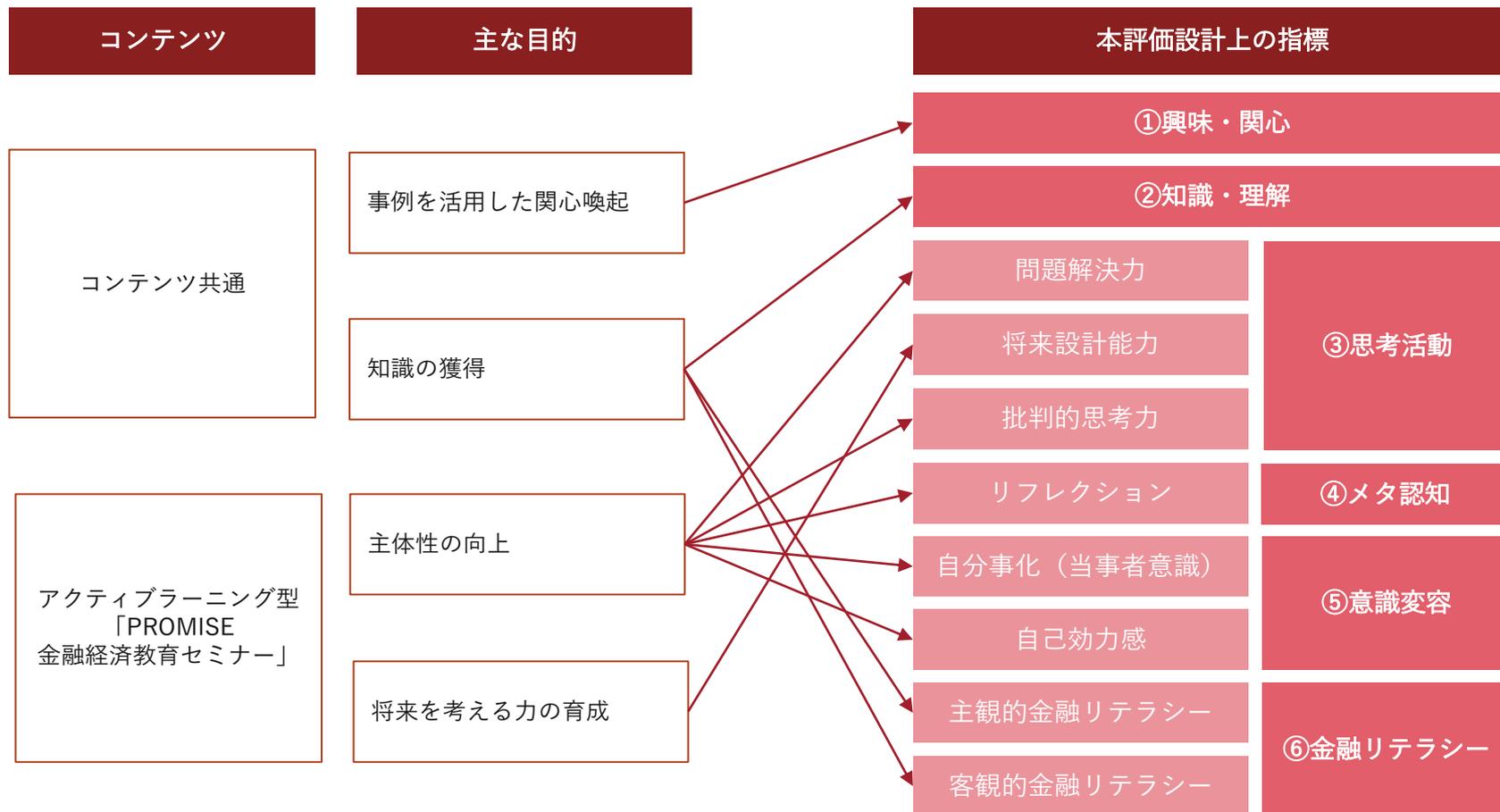
6. 想定した評価指標

先行研究やコンテンツ資料から、アクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」の評価指標として、以下を想定した。



7. コンテンツの目的と評価指標の関係性

プログラム資料から、コンテンツ共通及びアクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」の主な目的と本評価設計上の指標との関係性は、以下のように整理した。



8. 社会的インパクト評価概要： アクティブラーニング型・聴講型比較

2022年度評価においては、高等学校の生徒に対して、アクティブラーニング型セミナーと聴講集中型セミナーがもたらす効果に関する調査を実施し、各コンテンツによるインパクトを検討した。

項目	概要
評価名	アクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」の社会的インパクト評価
対象	①アクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」受講の高校生 ②聴講集中型「PROMISE 金融経済教育セミナー」受講の高校生 ③セミナー未受講の高校生（調査会社を用いてデータを収集）
評価手法	A) セミナー受講前後による事前事後比較 B) アクティブラーニング型セミナーと聴講型セミナーの比較 C) セミナー受講群とセミナー未受講群による比較
評価概要	<ul style="list-style-type: none">受講者へのインパクトを評価するために、セミナー受講者・未受講者に対して、「金融リテラシー」及び金融リテラシー向上に寄与すると考えられる「資質・能力の育成プロセスに関する指標」を測定する質問紙調査を実施回収した調査票に基づいて、プログラム受講前後による評価項目の変化や、セグメント分析（受講コンテンツ・性別等）を実施、どのようなコンテンツの実施が初期アウトカムのどの指標に特に変化を促すかについて評価を実施したアクティブラーニング型受講者へのインタビューを実施し、定性データを取得した

Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」

分析結果

(1) 定量分析の概要

9. 定量調査の実施概要

2022年度社会的インパクト評価におけるアンケート調査は、2022年7月から2023年2月に実施し、受講群としては、アクティブラーニング型6校、聴講集中型7校を対象とした。なお、未受講群に関しては、楽天インサイトを用いてデータ収集を実施している。

なお、各群のアンケート調査参加人数、分析対象者数は以下の通りである。

受講コース	参加者数（人）			分析対象数（人）
	属性	事前	事後	
アクティブラーニング型	男性	262	220	212
	女性	316	237	234
	その他	40	37	28
	全体	618	494	474
聴講集中型	男性	235	246	220
	女性	283	277	255
	その他	32	32	24
	全体	550	555	500
未受講群	男性	161	77	77
	女性	250	147	147
	その他	0	0	0
	全体	411	224	224
合計		1,579	1,273	1,198

※分析の対象は、①事前アンケート調査、②事後アンケート調査、③対象となる金融経済教育セミナー、の3点すべてに参加した学生とした

10. 質問票の構成

領域	質問数	質問概要	参考
客観的 金融リテラシー	24問	金融リテラシー・マップ4分野、正誤問題 例「生活費の収入・支出に関する次の記述のうち、適切でないものはどれでしょうか」	金融リテラシー 調査 2019年及び 2022年 (金融広報中央委 員会)
主観的 金融リテラシー	1問	金融リテラシーのレベルに対する自己評価、5段階評価 例「あなたの金融全般に関する知識は、他の人と比べて、どのようなレベルにあると感じていますか」	
行動特性・考え方	16問	8項目（収支の把握・計画性・慎重性・消費傾向・横並びバイアス・損失回避行動・消費に関する自己評価・支払の認識）に対する自己評価、2択もしくは5段階評価 例「何かを買う前に、それを買う余裕があるかどうか注意深く考える」	
資質・能力の育成 プロセス	18問	7項目（興味・関心、知識・理解、問題解決能力、将来設計能力、批判的思考力、リフレクション、自分事化、自己効力感）に対する自己評価（5段階評価）及び1項目（知識・理解）に対する正誤問題 例「金融や経済に関することに、どの程度興味がありますか」	
属性	4問	①金融経済教育の経験（2問） ②個人属性：性別・学年（2問）	

Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」 分析結果 (2) 金融リテラシー

11-1. 金融リテラシーのセミナー受講による変化

本社会的インパクト評価における客観的金融リテラシー及び主観的金融リテラシーに対して、以下の属性に対して、正答率を基にしたスコアとその変化量を算出した。

客観的金融リテラシーは、受講群のスコアが向上し、未受講群のスコアが減少傾向にあった。

主観的金融リテラシーは、受講群のスコアが向上しており、特にアクティブラーニング型のスコアに有意な変化が見られた。未受講群では減少傾向にあった。

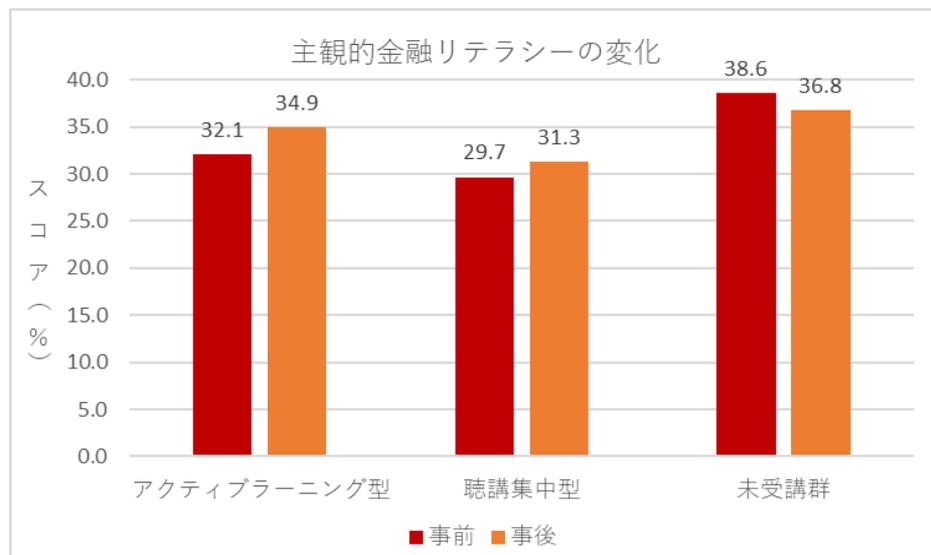
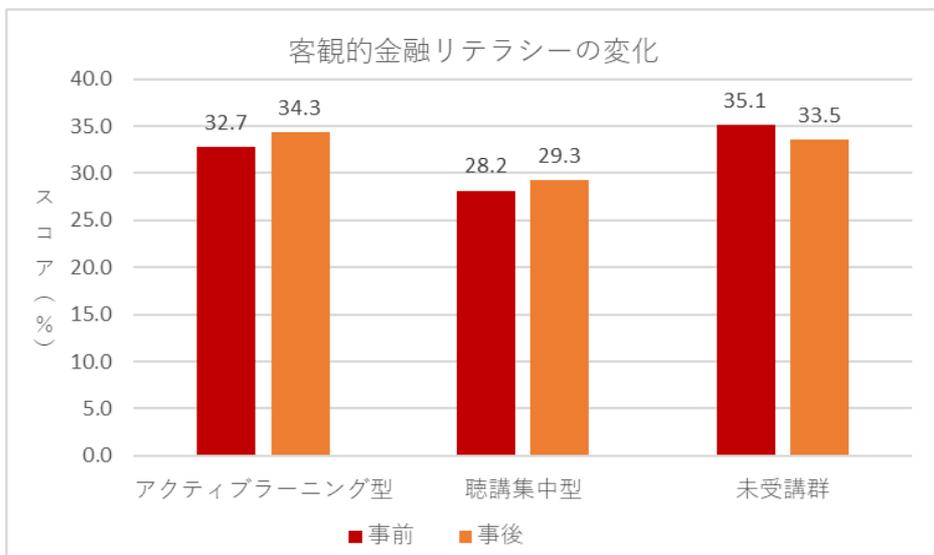
2022年度評価における金融リテラシーのスコア一覧 (単位：％、青字：ポジティブな変化、黄色枠：統計的有意差あり)

受講コース	属性	金融リテラシー					
		客観的金融リテラシー			主観的金融リテラシー		
		事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
アクティブラーニング型	男性	32.0	32.0	▲ 0.0	34.7	38.5	3.8
	女性	34.0	36.9	2.9	29.0	32.6	3.6
	その他	25.2	29.4	4.2	27.3	25.6	▲ 1.7
	進学校	46.0	46.8	0.8	39.6	42.2	2.5
	一般校	23.0	27.6	4.6	24.9	28.0	3.2
	専門学科	35.6	29.5	▲ 6.1	38.8	41.1	2.3
	定時制	-	-	-	-	-	-
	全体	32.7	34.3	1.6	32.1	34.9	2.8
聴講集中型	男性	29.9	31.3	1.4	31.7	37.0	5.3
	女性	28.6	30.6	2.0	29.1	28.5	▲ 0.6
	その他	14.2	6.6	▲ 7.6	8.7	20.4	11.6
	進学校	28.0	25.2	▲ 2.9	33.0	31.3	▲ 1.8
	一般校	19.8	21.9	2.2	25.2	28.6	3.3
	専門学科	30.4	31.9	1.5	32.8	37.3	4.5
	定時制	32.2	33.5	1.3	26.0	22.1	▲ 3.9
	全体	28.2	29.3	1.1	29.7	31.3	1.7
未受講群	男性	37.1	37.1	0.0	40.3	39.2	▲ 1.1
	女性	34.3	31.7	▲ 2.5	38.2	36.9	▲ 1.3
	その他	-	-	-	-	-	-
	進学校	43.2	42.7	▲ 0.5	48.9	44.9	▲ 4.0
	一般校	27.6	29.6	2.0	36.5	35.0	▲ 1.5
	専門学科	31.6	28.0	▲ 3.6	26.3	31.1	4.9
	定時制	38.0	33.8	▲ 4.3	42.7	36.0	▲ 6.7
	全体	35.1	33.5	▲ 1.6	38.6	36.8	▲ 1.8

11-2. 金融リテラシーのセミナー受講による変化

客観的金融リテラシー及び主観的金融リテラシーのセミナー受講による変化を、受講群の2コース、未受講群全体にて比較したところ、受講群は向上傾向であり、未受講群は減少傾向にあった。

金融リテラシーの変化（事前・事後）



Brief Explanation

- 客観的金融リテラシーは、アクティブラーニング型セミナー受講者、聴講集中型セミナー受講者共に、スコアが緩やかな向上傾向にあった。
- 主観的金融リテラシーは、受講群のスコアが向上傾向にあり、特にアクティブラーニング型のスコアは有意に向上しており、アクティブラーニング型セミナー受講による主観的金融リテラシーへの効果が推察できる。

12-1. 客観的金融リテラシー：性別による比較

客観的金融リテラシーの変化（性別比較）

（単位：％、青字：ポジティブな変化、黄色枠：統計的有意差あり）

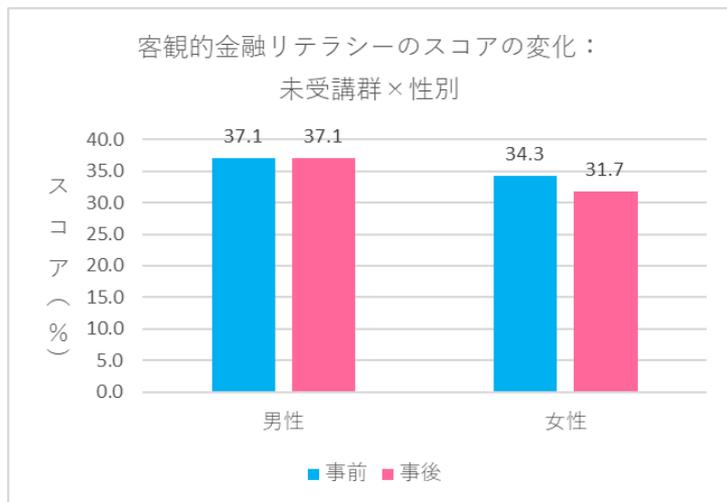
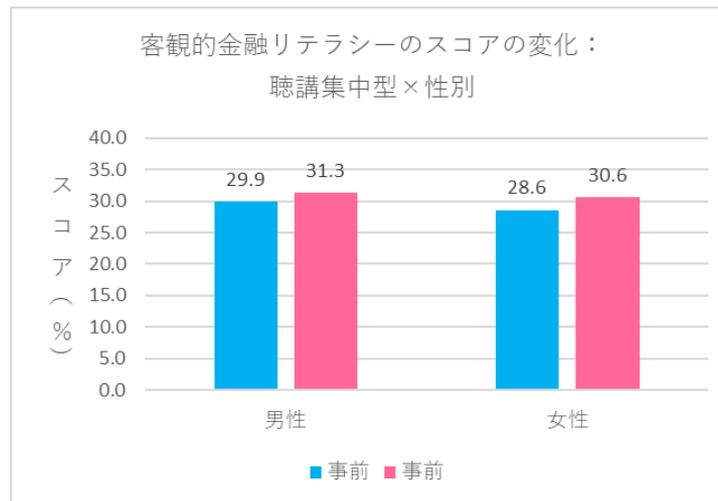
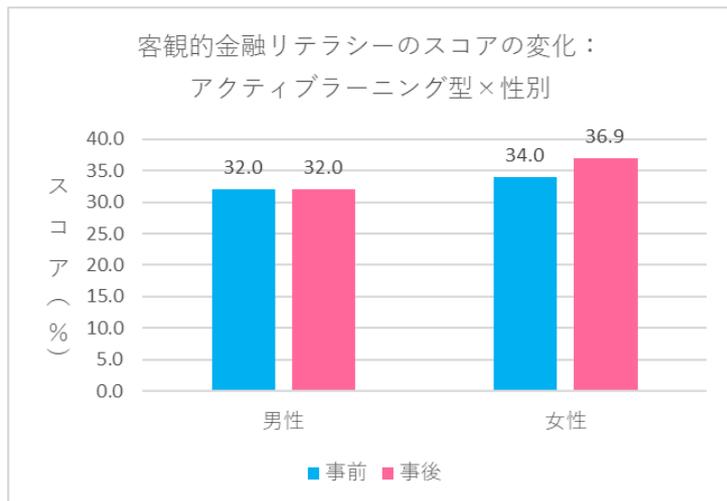
受講コース	属性	金融リテラシー					
		客観的金融リテラシー			主観的金融リテラシー		
		事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
アクティブラーニング型	男性	32.0	32.0	▲ 0.0	34.7	38.5	3.8
	女性	34.0	36.9	2.9	29.0	32.6	3.6
	その他	25.2	29.4	4.2	27.3	25.6	▲ 1.7
	全体	32.7	34.3	1.6	32.1	34.9	2.8
聴講集中型	男性	29.9	31.3	1.4	31.7	37.0	5.3
	女性	28.6	30.6	2.0	29.1	28.5	▲ 0.6
	その他	14.2	6.6	▲ 7.6	8.7	20.4	11.6
	全体	28.2	29.3	1.1	29.7	31.3	1.7
未受講群	男性	37.1	37.1	0.0	40.3	39.2	▲ 1.1
	女性	34.3	31.7	▲ 2.5	38.2	36.9	▲ 1.3
	その他	-	-	-	-	-	-
	全体	35.1	33.5	▲ 1.6	38.6	36.8	▲ 1.8

Brief Explanation

- **客観的金融リテラシー**は、受講群の各コース全体では大きな変化が見られなかったが、性別で比較した結果、女子学生においては、アクティブラーニング型セミナー受講者では34.0%から36.9%へと向上、聴講集中型セミナー受講者では28.6%から30.6%に向上と、両コースともにセミナー受講によるポジティブな変化が見られた。
- 未受講群に関しては、男子学生では変化なし、女子学生では減少傾向にあった。
- セミナー受講による客観的金融リテラシーは、**女子学生において効果が期待できる。**

12-2. 客観的金融リテラシー：性別による比較

客観的金融リテラシーの変化（性別比較）



13-1. 客観的金融リテラシー：学校属性による比較

客観的金融リテラシーの変化（学校属性比較）

（単位：％、青字：ポジティブな変化、黄色枠：統計的有意差あり）

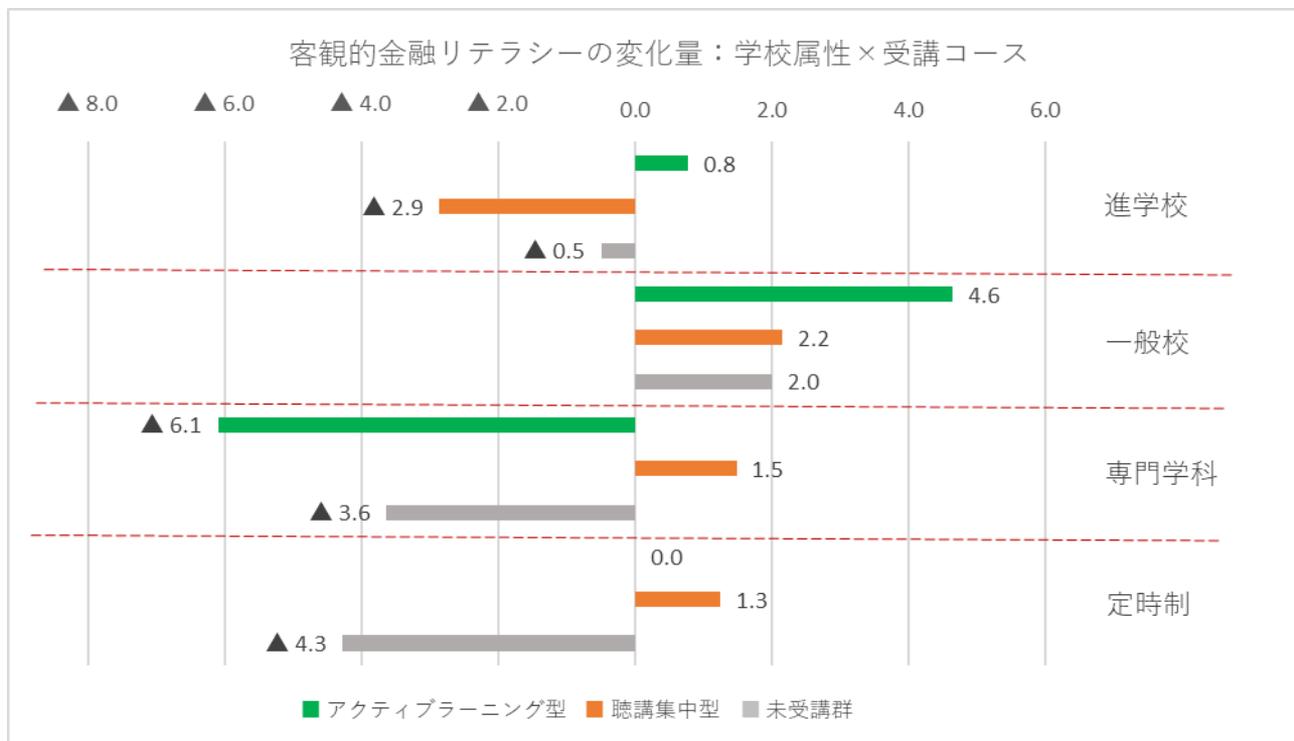
受講コース	属性	金融リテラシー					
		客観的金融リテラシー			主観的金融リテラシー		
		事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
アクティブラーニング型	進学校	46.0	46.8	0.8	39.6	42.2	2.5
	一般校	23.0	27.6	4.6	24.9	28.0	3.2
	専門学科	35.6	29.5	▲ 6.1	38.8	41.1	2.3
	定時制	-	-	-	-	-	-
	全体	32.7	34.3	1.6	32.1	34.9	2.8
聴講集中型	進学校	28.0	25.2	▲ 2.9	33.0	31.3	▲ 1.8
	一般校	19.8	21.9	2.2	25.2	28.6	3.3
	専門学科	30.4	31.9	1.5	32.8	37.3	4.5
	定時制	32.2	33.5	1.3	26.0	22.1	▲ 3.9
	全体	28.2	29.3	1.1	29.7	31.3	1.7
未受講群	進学校	43.2	42.7	▲ 0.5	48.9	44.9	▲ 4.0
	一般校	27.6	29.6	2.0	36.5	35.0	▲ 1.5
	専門学科	31.6	28.0	▲ 3.6	26.3	31.1	4.9
	定時制	38.0	33.8	▲ 4.3	42.7	36.0	▲ 6.7
	全体	35.1	33.5	▲ 1.6	38.6	36.8	▲ 1.8

Brief Explanation

- **客観的金融リテラシー**は、受講群の各コース全体では大きな変化が見られなかったが、学校属性での比較においては、聴講集中型では進学校を除く属性で向上傾向が見られた。
- アクティブラーニング型では一般校のスコアが23.0%から27.6%へとポジティブな変化が見られた。聴講集中型でも一般校においてスコアが向上しているが、未受講群との有意差が見られないため、一般校における聴講集中型による客観的金融リテラシー向上への効果は本調査の結果のみからでは断定できない。
- 専門学科に対する客観的金融リテラシー向上への効果は、聴講集中型セミナーにおいて期待できる。

13-2. 客観的金融リテラシー：学校属性による比較

客観的金融リテラシーの変化（学校属性比較）



14-1.主観的金融リテラシー：性別による比較

主観的金融リテラシーの変化（性別比較）

（単位：％、青字：ポジティブな変化、黄色枠：統計的有意差あり）

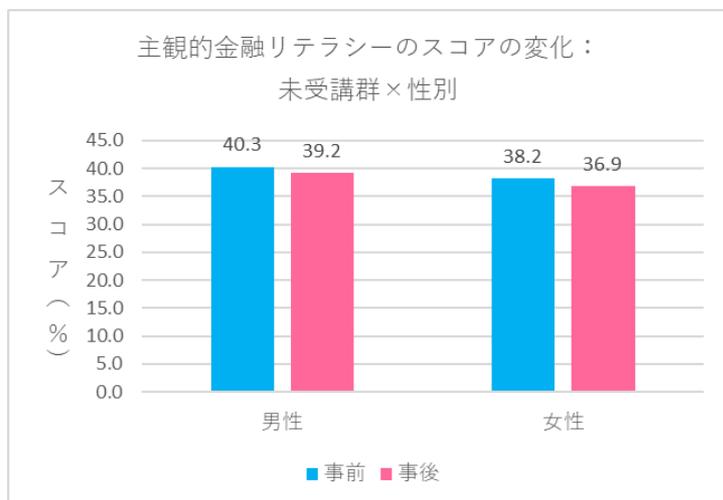
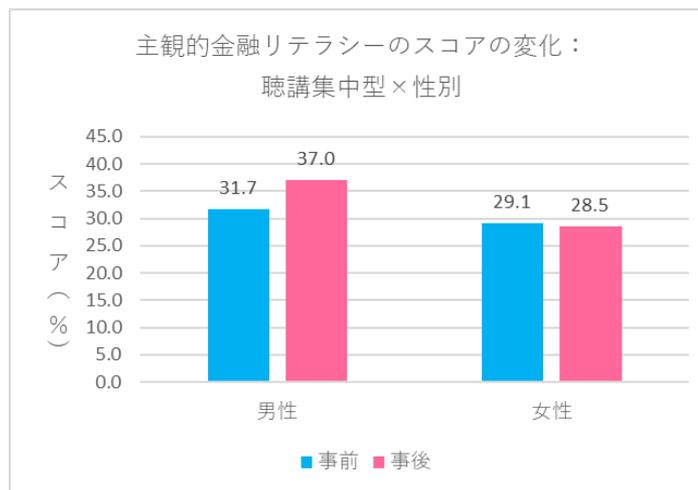
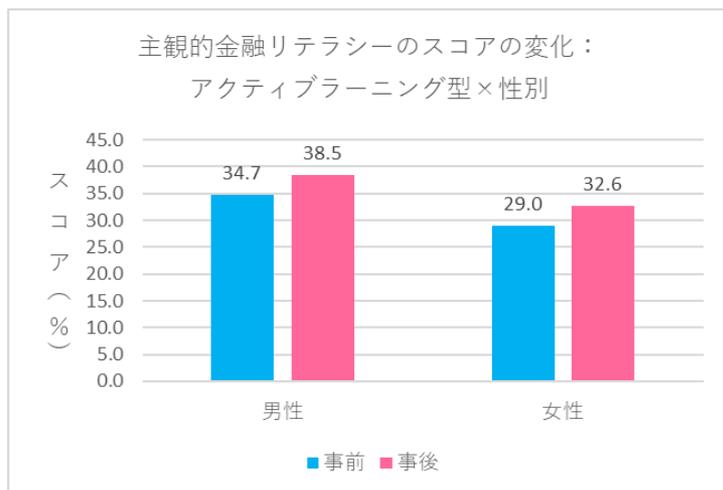
受講コース	属性	金融リテラシー					
		客観的金融リテラシー			主観的金融リテラシー		
		事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
アクティブラーニング型	男性	32.0	32.0	▲ 0.0	34.7	38.5	3.8
	女性	34.0	36.9	2.9	29.0	32.6	3.6
	その他	25.2	29.4	4.2	27.3	25.6	▲ 1.7
	全体	32.7	34.3	1.6	32.1	34.9	2.8
聴講集中型	男性	29.9	31.3	1.4	31.7	37.0	5.3
	女性	28.6	30.6	2.0	29.1	28.5	▲ 0.6
	その他	14.2	6.6	▲ 7.6	8.7	20.4	11.6
	全体	28.2	29.3	1.1	29.7	31.3	1.7
未受講群	男性	37.1	37.1	0.0	40.3	39.2	▲ 1.1
	女性	34.3	31.7	▲ 2.5	38.2	36.9	▲ 1.3
	その他	-	-	-	-	-	-
	全体	35.1	33.5	▲ 1.6	38.6	36.8	▲ 1.8

Brief Explanation

- **主観的金融リテラシー**は、受講群のうち、アクティブラーニング型では男子学生、女子学生ともにポジティブな変化が見られた。聴講集中型では、男子学生において、スコアが大きく向上した。未受講群に関しては、未受講群全体のスコアと同様に、男子学生、女子学生共に減少傾向にあった。
- セミナー受講による主観的金融リテラシーは、**アクティブラーニング型では性別にかかわらず効果が確認され、聴講集中型では男子学生への効果が期待できる。**

14-2. 主観的金融リテラシー：性別による比較

主観的金融リテラシーの変化（性別比較）



15-1. 主観的金融リテラシー：学校属性による比較

主観的金融リテラシーの変化（学校属性比較）

（単位：％、青字：ポジティブな変化、黄色枠：統計的有意差あり）

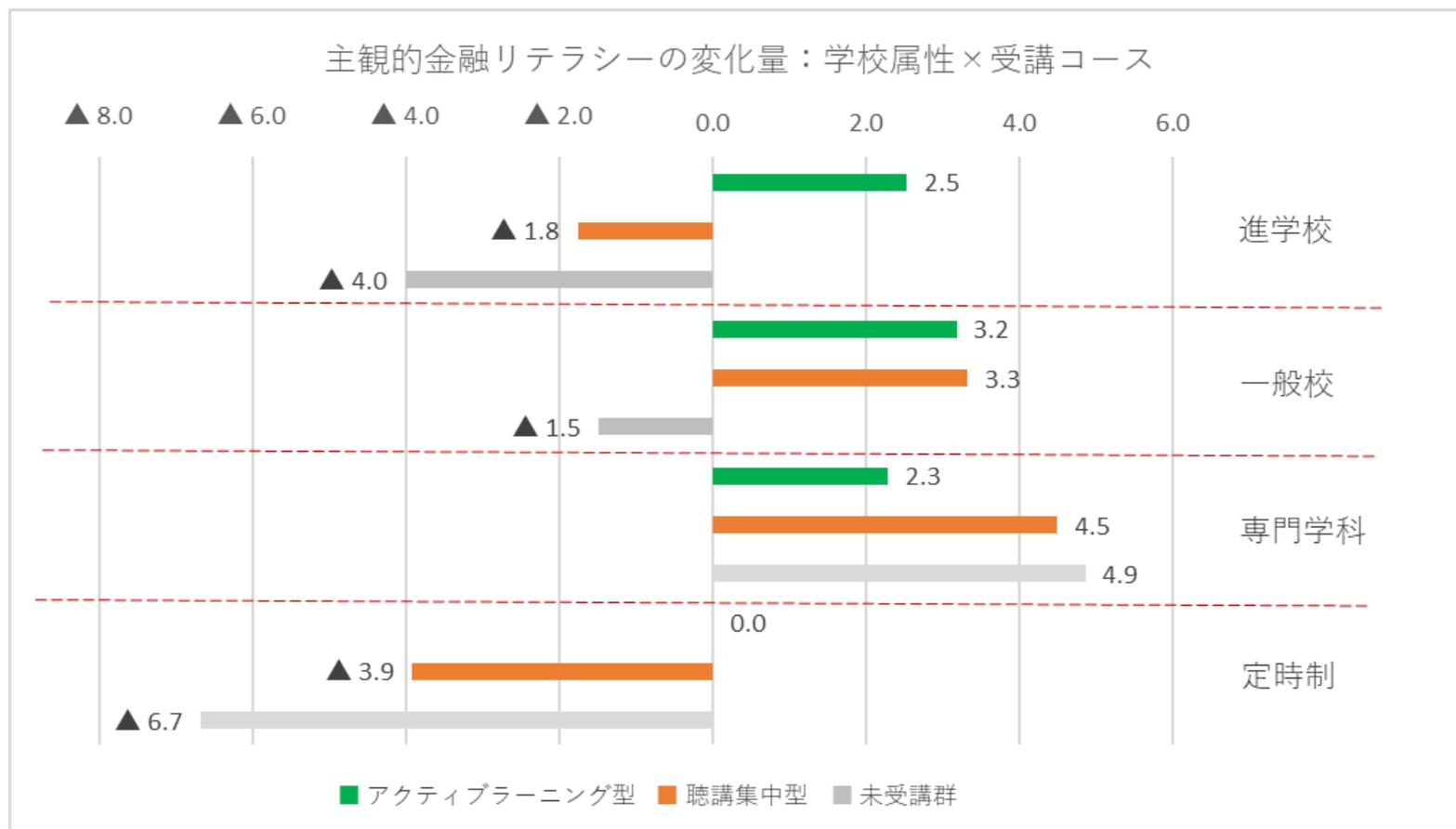
受講コース	属性	金融リテラシー					
		客観的金融リテラシー			主観的金融リテラシー		
		事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
アクティブラーニング型	進学校	46.0	46.8	0.8	39.6	42.2	2.5
	一般校	23.0	27.6	4.6	24.9	28.0	3.2
	専門学科	35.6	29.5	▲ 6.1	38.8	41.1	2.3
	定時制	-	-	-	-	-	-
	全体	32.7	34.3	1.6	32.1	34.9	2.8
聴講集中型	進学校	28.0	25.2	▲ 2.9	33.0	31.3	▲ 1.8
	一般校	19.8	21.9	2.2	25.2	28.6	3.3
	専門学科	30.4	31.9	1.5	32.8	37.3	4.5
	定時制	32.2	33.5	1.3	26.0	22.1	▲ 3.9
	全体	28.2	29.3	1.1	29.7	31.3	1.7
未受講群	進学校	43.2	42.7	▲ 0.5	48.9	44.9	▲ 4.0
	一般校	27.6	29.6	2.0	36.5	35.0	▲ 1.5
	専門学科	31.6	28.0	▲ 3.6	26.3	31.1	4.9
	定時制	38.0	33.8	▲ 4.3	42.7	36.0	▲ 6.7
	全体	35.1	33.5	▲ 1.6	38.6	36.8	▲ 1.8

Brief Explanation

- **主観的金融リテラシー**は、アクティブラーニング型を受講した全ての学校属性でポジティブな変化が見られた。聴講集中型では、一般校、専門学科でポジティブな変化が見られた。
- 専門学科では、アクティブラーニング型、聴講集中型共にポジティブな変化が見られたが、未受講群においても専門学科でスコアが向上していたことから、専門学科における、セミナー受講による客観的金融リテラシーへの効果は本調査の結果のみからは断定できない。
- 進学校においては、アクティブラーニング型受講による、主観的金融リテラシーへの効果が期待できると言える。

15-2. 主観的金融リテラシー：学校属性による比較

主観的金融リテラシーの変化（学校属性比較）



16. 金融リテラシー・マップのセミナー受講による変化

客観的金融リテラシーを構成する各分類について、金融広報中央委員会が設定している金融リテラシー・マップを用いて、各属性で比較した。

未受講群は「金融知識 金融取引の基本」を除いた分類でスコアが減少しているのに対し、受講群のうち、アクティブラーニング型では多くの項目でスコアが向上傾向にあり、「家計管理」・「生活設計」・「金融知識 資産形成」においてはポジティブな変化が見られた。聴講集中型では、「金融知識 保険」・「金融知識 資産形成」・「外部知見の活用」ではわずかに減少傾向が見られたが、それ以外の項目ではスコアが向上した。

金融リテラシー・マップの変化量

(単位：%、黄枠：ポジティブな変化、青枠：ネガティブな変化)

金融リテラシーマップ 分類	アクティブラーニング型			聴講集中型			未受講群		
	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
家計管理	44.3	47.2	2.9	35.9	37.9	2.0	32.3	31.1	▲ 1.2
生活設計	27.6	29.9	2.4	24.4	25.8	1.4	27.3	26.6	▲ 0.6
金融知識 金融取引の基本	52.4	54.1	1.7	44.0	48.2	4.2	51.2	55.8	4.6
金融知識 金融・経済の基礎	24.6	26.1	1.4	20.3	20.9	0.6	31.4	30.3	▲ 1.1
金融知識 ローン・クレジット	24.4	25.4	1.0	20.7	23.6	2.9	33.4	31.8	▲ 1.6
金融知識 保険	23.9	23.8	▲ 0.1	19.9	18.5	▲ 1.4	27.4	25.8	▲ 1.7
金融知識 資産形成	26.6	28.8	2.2	24.8	24.3	▲ 0.5	30.7	22.8	▲ 7.9
外部知見の活用	38.3	39.2	1.0	35.4	35.0	▲ 0.4	47.3	44.1	▲ 3.1

Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」 分析結果 (3) 行動特性・考え方

17-1. 行動特性・考え方のセミナー受講による変化

行動特性・考え方の変化量について比較したところ、受講群の2コースでは大きな差異は見られなかったが、投資行動に関する設問となる「損失回避行動」に関しては、アクティブラーニング型で大きくスコアが変化した。これは、アクティブラーニング型で取り上げる投資に関するワークショップにより、投資に関する関心が高まり、外部知見の活用の重要性が認識されたことによるものと推察できる。また、「横並びバイアス」と「支払の認識」は、セミナー受講による効果が期待できる。

行動特性・考え方の変化量一覧

(単位：%、黄枠：ポジティブな変化、青枠：ネガティブな変化)

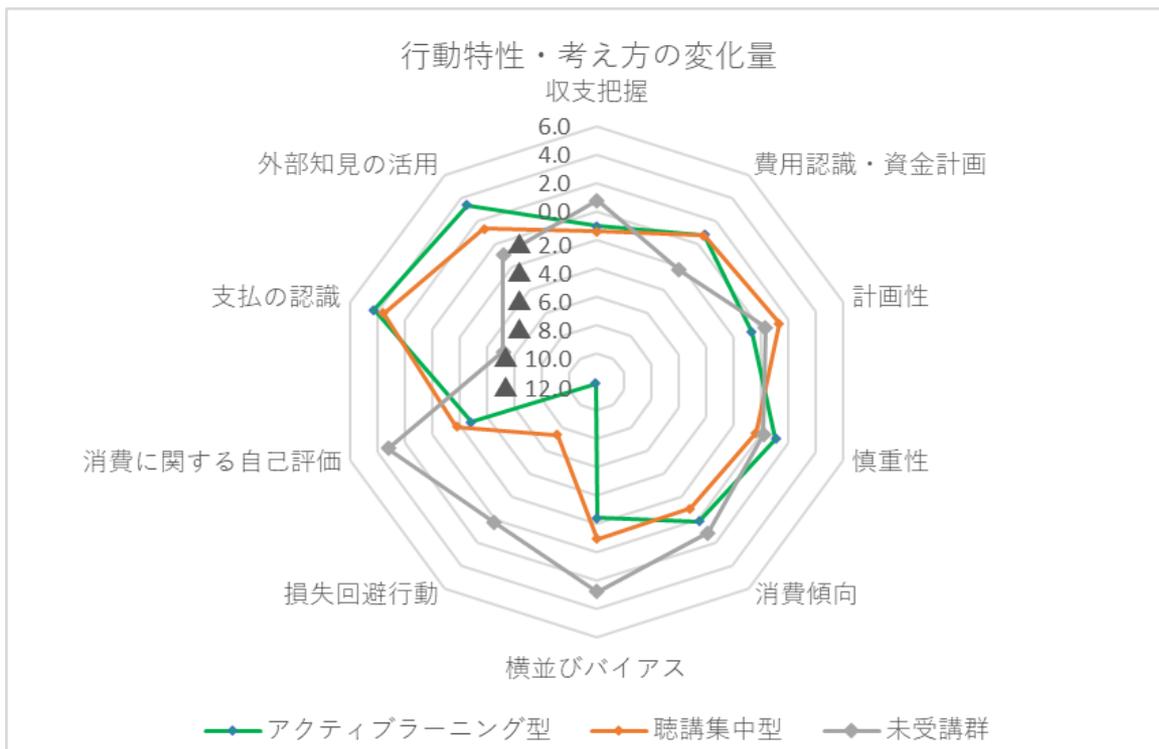
行動特性・考え方	アクティブラーニング型			聴講集中型			未受講群		
	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
収支把握	51.9	50.8	▲ 1.0	57.5	56.1	▲ 1.4	56.5	57.3	0.8
費用認識・資金計画	13.5	14.3	0.8	16.3	17.0	0.7	13.7	11.4	▲ 2.3
計画性	65.8	65.2	▲ 0.7	62.4	63.7	1.3	64.6	65.0	0.3
慎重性	80.7	81.8	1.1	79.5	79.1	▲ 0.4	76.5	76.6	0.2
消費傾向	56.3	56.4	0.1	54.6	53.6	▲ 1.0	59.3	60.4	1.1
横並びバイアス (※)	68.6	66.2	▲ 2.4	61.8	60.9	▲ 0.9	63.9	66.7	2.8
損失回避行動	63.8	51.9	▲ 11.9	71.0	63.7	▲ 7.4	76.9	77.1	0.2
消費に関する自己評価	54.4	51.6	▲ 2.8	52.1	50.3	▲ 1.8	52.6	55.8	3.2
支払の認識	65.9	70.2	4.3	68.1	71.7	3.6	77.3	72.1	▲ 5.2
外部知見の活用	51.6	54.9	3.4	53.2	54.5	1.3	49.5	48.6	▲ 1.0

※：反転項目（値が低いほど良い傾向にある項目）

17-2. 行動特性・考え方のセミナー受講による変化

行動特性・考え方の比較

※横並びバイアス：反転項目（値が低いほど良い傾向にある項目）



Brief Explanation

- **行動特性・考え方**は、学生が学びに積極的に参加するアクティブラーニング型において、「損失回避行動」、「外部知見の活用」においてポジティブな変化が見られ、投資などの題材を通して望ましい行動特性・考え方を醸造する本コースの目的や手法と、その効果が合致していると推測できる。

17-3. 行動特性・考え方のセミナー受講による変化

行動特性・考え方の比較

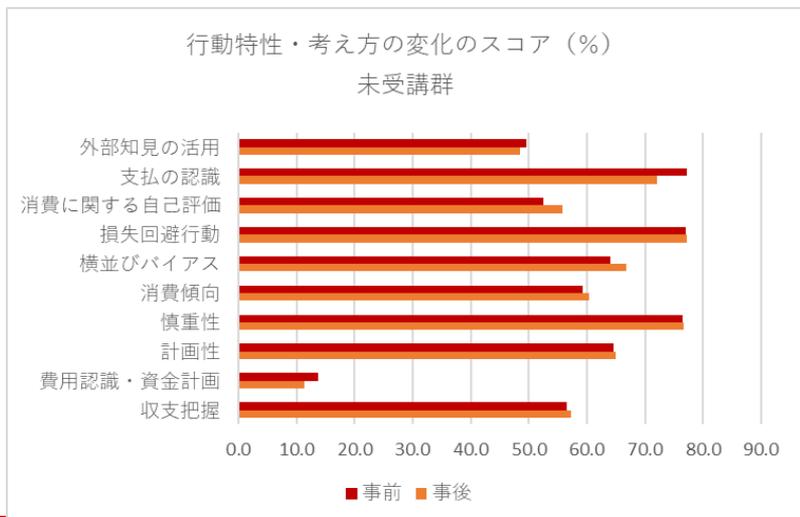
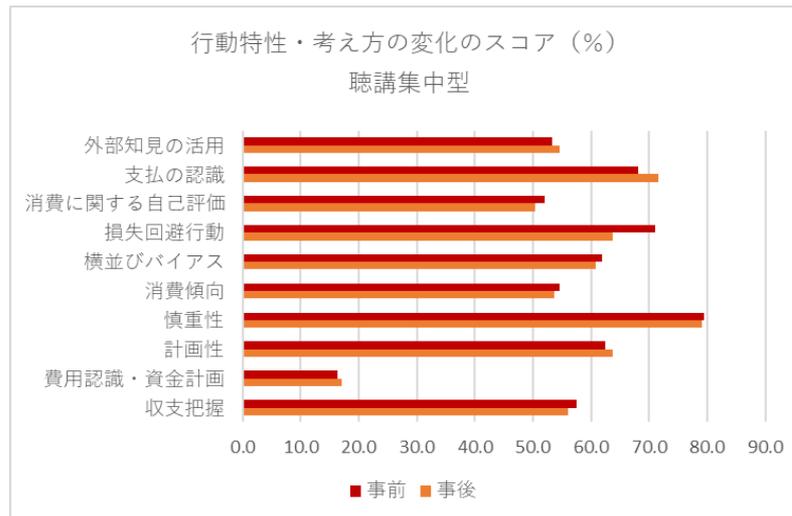
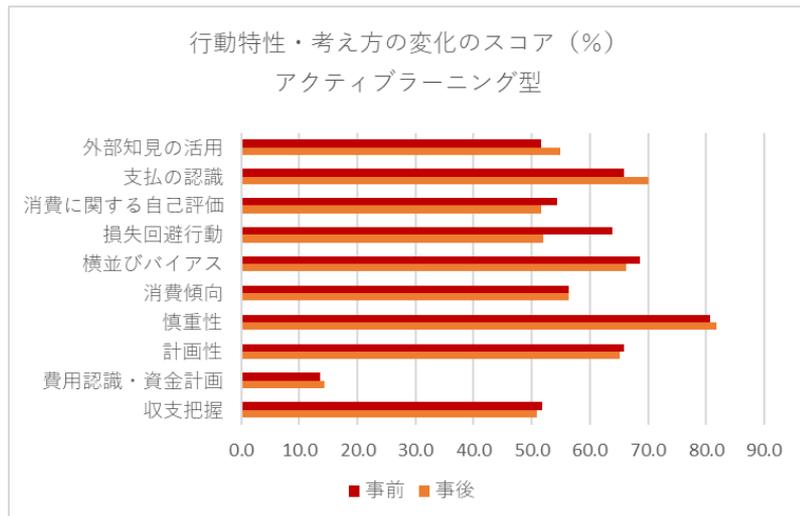
※横並びバイアス：反転項目（値が低いほど良い傾向にある項目）



17-4. 行動特性・考え方のセミナー受講による変化

行動特性・考え方の比較

※横並びバイアス：反転項目（値が低いほど良い傾向にある項目）



Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」 分析結果

(4) 資質・能力の育成プロセス

18-1. 資質・能力の育成プロセスのセミナー受講による変化

PROMISE 金融経済教育セミナーが有するコースのうち、アクティブラーニング型と聴講集中型セミナー受講による、資質・能力の育成プロセスの変化は以下の通りである。

両コースともに緩やかな向上傾向が見られたが、特にアクティブラーニング型では、本コースが「興味・関心」、「批判的思考力」、「自分事化」、「自己効力感」においてポジティブな変化が確認された。

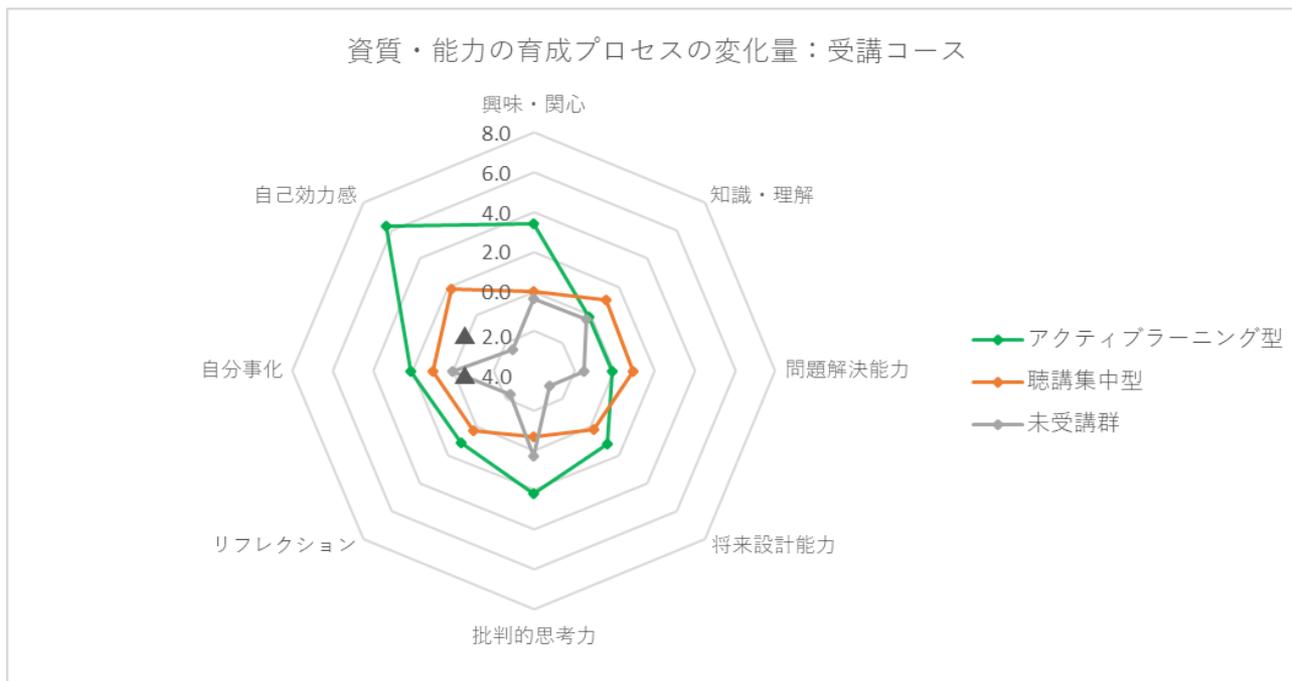
資質・能力の育成プロセスの変化量一覧

(単位：％、黄枠：ポジティブな変化、青枠：ネガティブな変化)

資質・能力の育成プロセス	アクティブラーニング型			聴講集中型			未受講群		
	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
興味・関心	36.8	40.2	▲ 3.4	33.7	33.7	▲ 0.0	36.7	36.4	▲ 0.3
知識・理解	27.5	27.3	▲ 0.1	21.7	22.7	▲ 1.0	28.0	27.7	▲ 0.4
問題解決能力	65.0	64.9	▲ 0.1	64.0	64.9	▲ 0.9	63.7	62.2	▲ 1.5
将来設計能力	74.2	75.4	▲ 1.2	72.8	73.0	▲ 0.2	68.8	65.9	▲ 2.9
批判的思考力	69.2	71.4	▲ 2.2	72.3	71.6	▲ 0.7	66.7	67.0	▲ 0.3
リフレクション	73.4	74.5	▲ 1.1	73.0	73.2	▲ 0.2	71.3	69.0	▲ 2.3
自分事化	66.0	68.1	▲ 2.1	69.5	70.5	▲ 1.0	63.4	63.4	0.0
自己効力感	66.3	72.6	▲ 6.4	68.0	69.8	▲ 1.8	64.9	62.4	▲ 2.5

18-2.資質・能力の育成プロセスのセミナー受講による変化

資質・能力の育成プロセスの比較（全体）

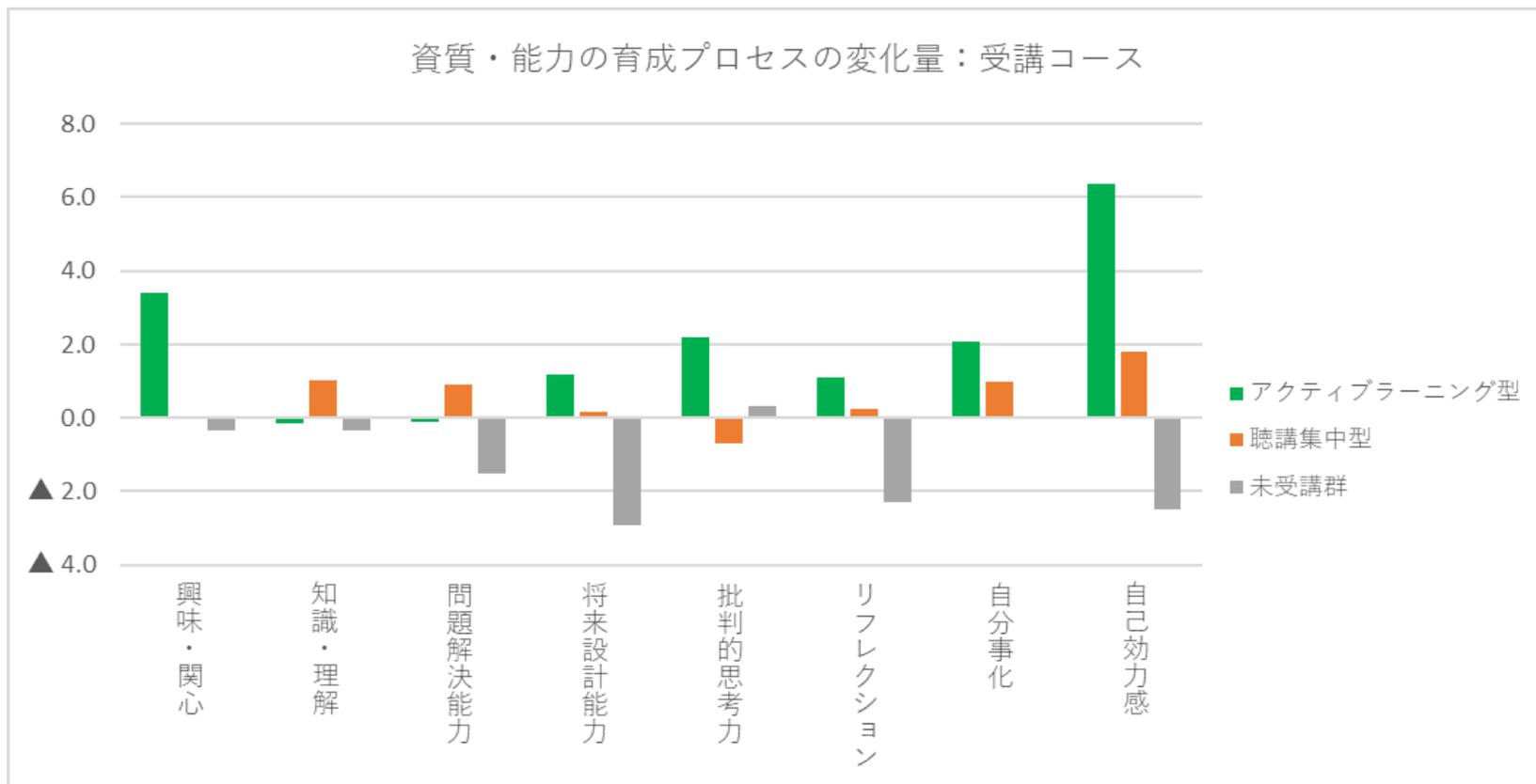


Brief Explanation

- **資質・能力の育成プロセス**は、未受講群と比較して、聴講集中型がバランスよくスコアが向上するのに対して、アクティブラーニング型では、「興味・関心」、「批判的思考力」、「外部知見の活用」においてポジティブな変化が示されており、学生が積極的に学びに参加するアクティブラーニング型において、金融経済分野に対する関心喚起や自分事化、外部知見の重要性の認識を育てる本コースの目的や手法と、その効果が合致していると推測できる。

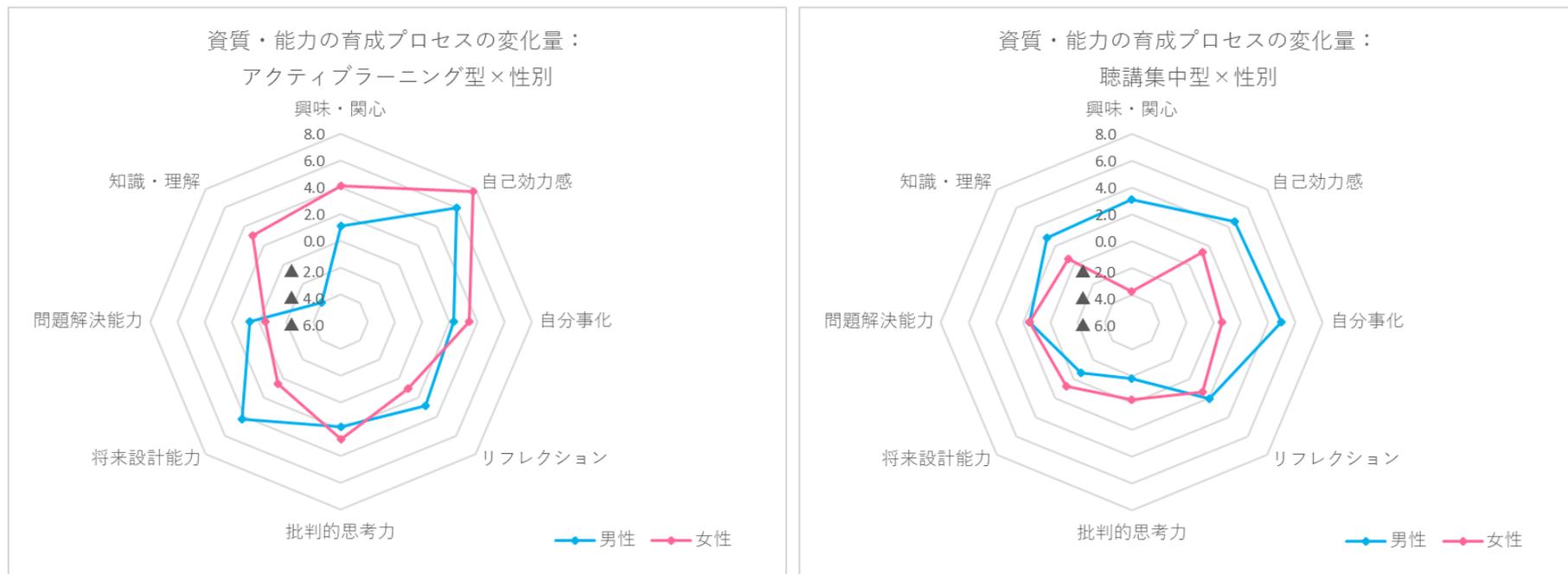
18-3.資質・能力の育成プロセスのセミナー受講による変化

資質・能力の育成プロセスの比較



19-1. 資質・能力の育成プロセス：性別による比較

資質・能力の育成プロセスの比較（性別）

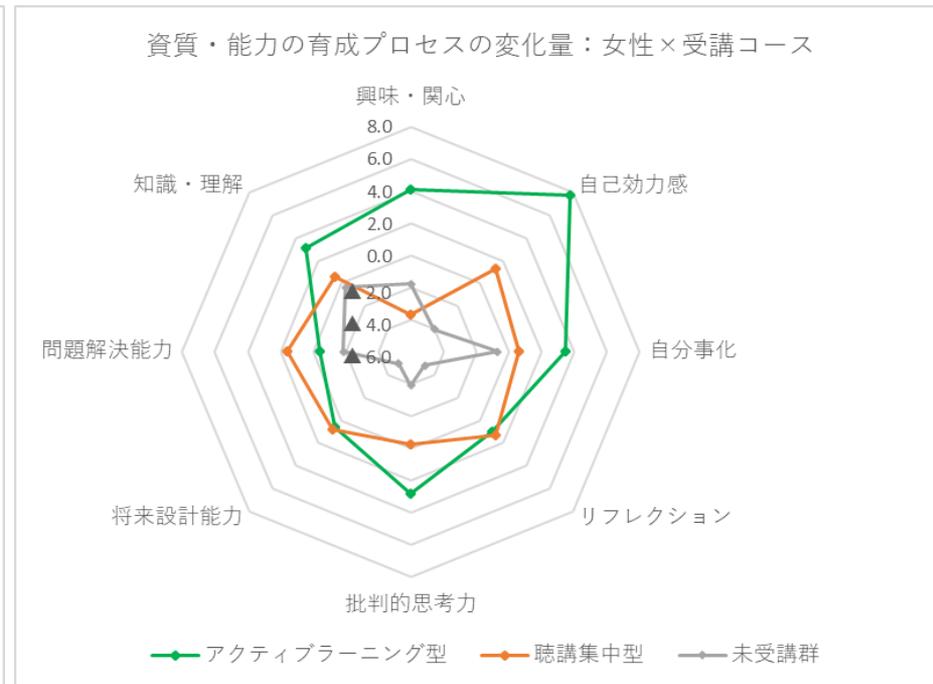
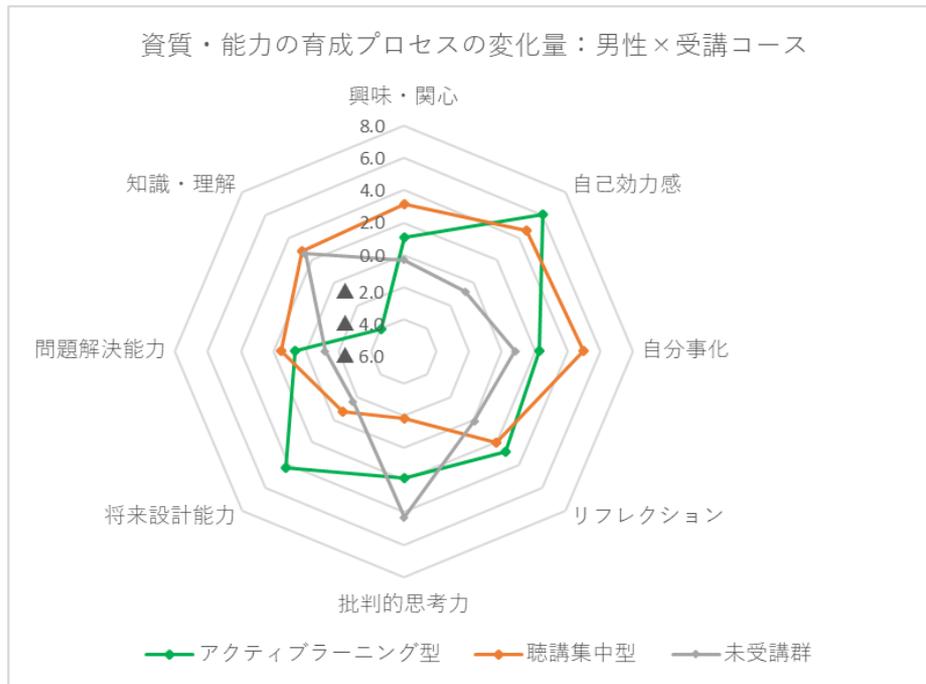


Brief Explanation

- 資質・能力の育成プロセスは、聴講集中型では多くの項目で男子学生の方がスコアの向上率が高いのに対し、アクティブラーニング型では「知識・理解」、「興味・関心」、「自己効力感」において女子学生の方がスコアの向上率が高い。
- 女子学生に対して、金融経済への関心喚起や自分事化、自己効力感の向上に働きかけるには、アクティブラーニング型の方が効果的であると推察できる。

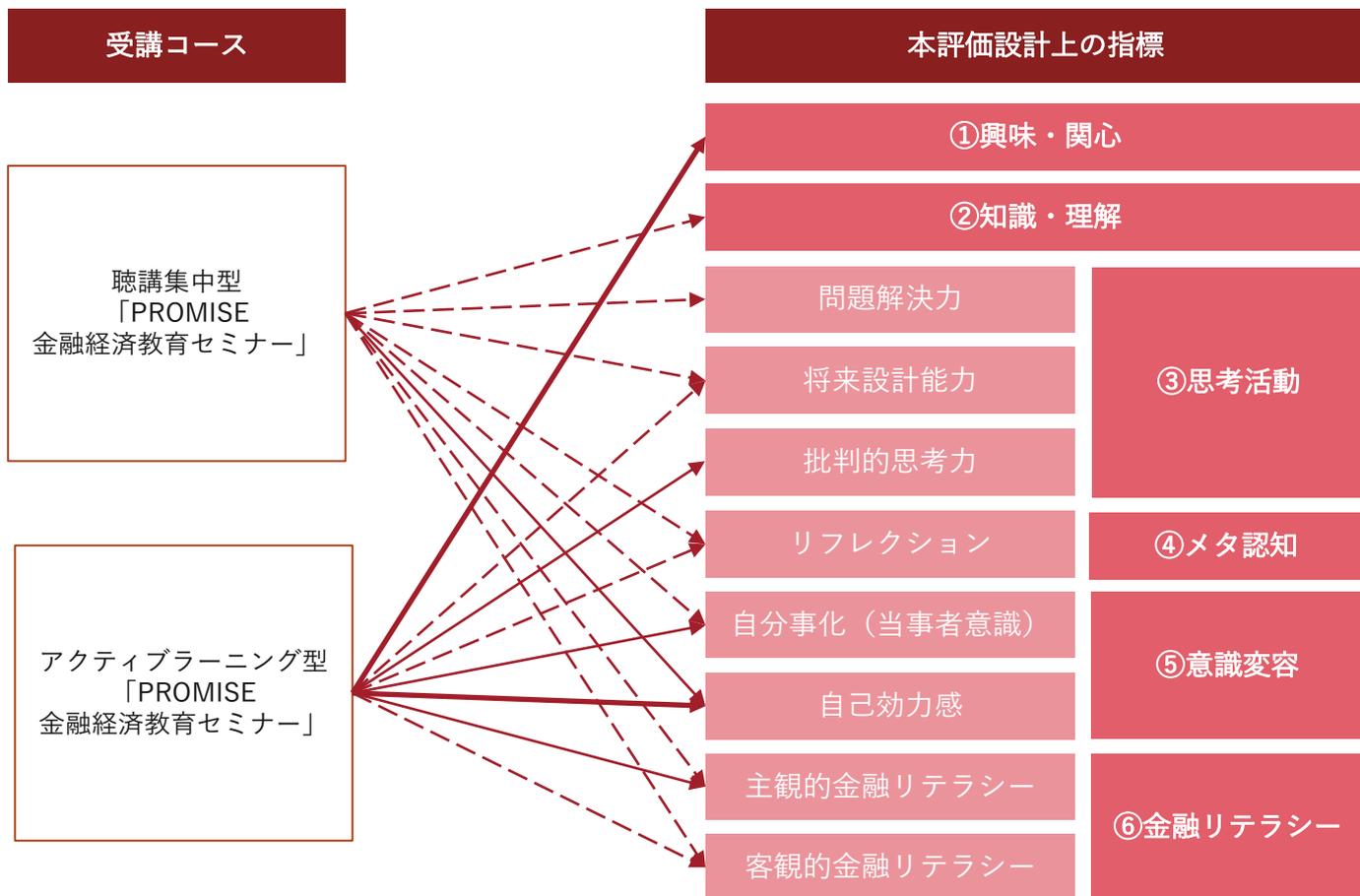
19-2. 資質・能力の育成プロセス：性別による比較

資質・能力の育成プロセスの比較（性別×受講コース）



20. コンテンツと評価指標との関係性

聴講集中型及びアクティブラーニング型「PROMISE 金融経済教育セミナー」と、資質・能力の育成プロセスとの関係性は、以下のように整理される。



Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」 分析結果

(5) 個別回答・インタビューからの定性分析

21. 個別の回答分析

個別の回答から見える傾向

基本的な金融の用語や仕組みについての理解レベルは低いですが、投資行為をリスクと考えない傾向があり、投資に対する関心は高い。

- 投資に関する関心
 - 投資の仕組みや損失計算等の知識が不十分であるセミナー受講前の段階から、投資に関する関心が高い。
- 電子決済の活用・関心（特に、クレジットカード）
 - 電子決済の利用度は半数程度だが、成年年齢が下がりクレジットカードなどの決済手段が身近になったことから、関心が高い。
- 外部知見の活用
 - ニュース・新聞等、金融経済への接触度が低い結果となったが、後述するインタビュー調査から、学生が主にニュース等に触れる媒体はスマートフォンを用いたインターネット検索であることが分かった。
 - インターネットでの検索は、自身が関心がある単語や記事を中心に触れることから、日常の中でいかに金融経済分野への関心を喚起するかが課題と言える。
- 預貯金や借りに関する計算問題における低い正答率
 - 預貯金や借りに関する経験の少ない高校生にとっては、金融経済の基礎知識を日常生活の中では習得する機会がないことから、預貯金の利息と借入の利息の混同や、計算方法の未習得による誤答が見られた。
- 正答率が低い問題において、間違った選択を行う学生は少なく、「わからない」を選択する割合が高い。

22. インタビュー実施概要

アウトカムの変化についての定性データを取得するため、アクティブラーニング型を受講した4校を対象にオンライン・インタビューを実施した。

対象校の概要

対象			開催時期		人数	
学校	学年	属性	事前	事後	事前	事後
広島県内公立高等学校(専門学科)	3年	専門学科	2022年9月21日	2022年10月19日	4	4
鹿児島県内私立高等学校	1年	進学校	2022年10月8日	2022年12月7日	4	4
鹿児島県内公立高等学校	2年	一般校	2022年10月24日	2022年11月22日	3	3
広島県内公立高等学校(一般校)	3年	一般校	2022年12月2日	2022年12月20日	4	4

主な質問項目

1. 事前インタビュー

- ①お金に関する意識（貯金・支出）
- ②金融経済教育の機会
- ③金融トラブルの経験

2. 事後インタビュー

- ①金融経済に関する関心
- ②セミナーの感想

23-1. インタビューから推測される変化

金融経済教育セミナーへの示唆

1. アクティブラーニング形式（ゲーム）の効果

アクティブラーニング導入による関心喚起・理解促進

- 投資ゲームで初めて投資のことをやってみて、話を聞いているときはよくわからなかったことが実際に自分でやってみたら少し理解できたのでよかった。（広島県内公立高等学校(一般校)）
- 授業の最後に株をどのタイミングで買うとか、そういった実践のゲームみたいなものをしたが、それで投資がどれだけ難しいことかっていうのを改めて感じる事ができた。（広島県内公立高等学校(専門学科)）
- 投資とか、全く知らない分野だったので、そこを簡単にわかりやすく、実際に自分たちも班を作ってやっていたのはすごく楽しかったし、わかりやすく教えていただけた。（鹿児島県内私立高等学校）

2. 高い満足度と充足感

- 今回のセミナーで満足なので、他に学びたいことなどは特に思いつかない。（広島県内公立高等学校(一般校)）
- 楽しかったし、とても勉強になったので、今は他に学びたいことが無い。（鹿児島県内私立高等学校）

23-2. インタビューから推測される変化

投資に関する関心喚起（事後インタビューから）

- 初めて投資のことをやってみて、話を聞いているときはよくわからなかったことが実際に自分でやってみたら少し理解できたので良かったし、面白いと思った。ただ、リスクもあるので、自分は考えるより普通に稼ぐほうが楽だと思ったので、自分で株はやらないと思う。（広島県内公立高等学校(一般校)）
- セミナーを受けるまで投資に対して、失敗をするという悪い意識が強くあったが、今回の講座を受けて実際には予測することができたり、失敗するリスクを限りなく減らすことができるということがすごく勉強になって、投資に興味を持った。（広島県内公立高等学校(専門学科)）
- 講師の話聞いた中で一番印象に残ったのが、「ギャンブルと投資は違う」という言葉で、投資は知識や今の社会状況とかがわかっているならば、成功しやすいものでもあるとわかって、ギャンブルとは全く違うということがわかった。（広島県内公立高等学校(専門学科)）

金融経済における関心分野（事前インタビューから）

- 投資や株式
- 金融トラブル
- クレジットカード等の決済方法やアプリケーション
- 税金（実際にいくら払うか、どのように払うのかなど実践的な点）
- 円安などの時事情報に関係すること
- 仮想通貨

23-3. インタビューから推測される変化

外部知見の活用（情報収集）に関する意識の向上

- 今まで、円高とか、円安をよくわかっていなくて、ニュースでも聞き流すだけだったが、今回のセミナーで株を買うとか、買わないとかの投資の講義を受けた際に、外国人の観光客が増えたりとか、日本の物価が落ちているとか、そういったニュースに自分から積極的に触れるようになった。（鹿児島県内私立高等学校）
- セミナーを受けて、今、実際にある円安の問題だったり、そうしたものが企業にも関わって株価が変動してしまうのかなど、現状を意識するようになった。（広島県内公立高等学校(専門学科)）
- 結婚費用がどれくらいかかるかっていうことを授業で調べたので、何歳で結婚するのが一番なんだろう、そこを知りたい、調べようかという話を友達とした。（鹿児島県内公立高等学校）

高校生における外部知見の活用における課題

1. 取得媒体

- ニュース等の取得媒体は、主にスマートフォンを用いたインターネット検索が多い。（多数）
- テレビも利用するが、テレビはいつもニュースをやってるわけではないから見たい時に見れない。（鹿児島県内公立高等学校）

2. 取得における課題：検索型による触れるニュースへの偏り

関心喚起による検索機会の向上の必要性

- スマートフォンで気になったニュースの検索はすごくするが、金融経済に関してはほとんど検索しない。テレビのニュースで見ることが多い。（鹿児島県内公立高等学校）
- セミナーを受けて検索しようという思いはあるが、どこから何を検索して始めればいいのか、そこからわからない。（鹿児島県内公立高等学校）

23-4. インタビューから推測される変化

コンテンツ・運営に関する評価・示唆

1. 取り上げる題材

- （結婚資金など、自分に）身近なもので数えられたことなど、実際に体験してみるとわかりやすかった。（鹿児島県内公立高等学校）
- もっと投資のマイナス側面や、海外企業なども取り上げてほしい。（広島県内公立高等学校(専門学科))

2. 運営

時間や回数

- 時間や回数をふやしたほうが良い。（広島県内公立高等学校(専門学科)、鹿児島県内公立高等学校）

ファシリテーションへの評価

- 切り替えができる時間をセットしていたり、ここで話し合いは終わりっていうのを講師がきちんとしていたから、わかりやすかった。（鹿児島県内公立高等学校）

Ⅱ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」 分析結果 (6) 2021年度評価との比較

24. 2021年度社会的インパクト評価との比較

2022年度社会的インパクト評価では、2021年度に実施した社会的インパクト評価から推計されたインパクトを踏まえ、聴講集中型及びアクティブラーニング型による効果の比較検証を行った。

項目	2021年度評価（全体）	2022年度評価（全体）
評価実施内容	「聴講集中型」	受講コースでの比較 「聴講集中型」 「アクティブラーニング型」
評価アプローチ	受講者の事前事後比較 対照群の設定有り	受講者の事前事後比較 対照群の設定有り
対象校	累計14校(受講群11校、未受講群3校)、約1500名	受講群の累計13校(アクティブラーニング型6校、 聴講集中型7校)、未受講群約400名、約1600名
生徒の属性	1年生～3年生、一般校・進学校・専門学科・定 時制等と多様な属性	1年生～3年生、一般校・進学校・専門学科・定 時制等と多様な属性
金融リテラシー	1年生・一般校・専門学科に特に伸びが見られる	緩やかに向上
行動特性・考え方	緩やかに向上、「損失回避行動」に変化	アクティブラーニング型による変化
自己効力感	緩やかに向上	アクティブラーニング型による変化
資質・能力の育成プロセス	なし	アクティブラーニング型による変化
得られた知見	<ul style="list-style-type: none"> 前年度1校で実証した評価モデルを全国11校に適用、母集団のインパクト推計に活用できることを確認した 対照群との比較では、介入群との同質性の担保の困難がある 対照群への同じ質問票の繰り返し実施の課題 行動レベルのアウトカム実現のためのプログラムコンテンツ追加（2022年度導入予定） 	<ul style="list-style-type: none"> 受講コースによる効果の比較検証を行い、レバレッジの違いを検証 アクティブラーニング型では、特に資質・能力の育成プロセスへの効果が期待される 地域性や学校特性等から、対象者の同質性の担保に課題がある 学校側のニーズや効果の高い属性とのマッチングを検討し、より効果的な金融リテラシーの向上を目指す

Ⅲ. 「PROMISE 金融経済教育セミナー」 考察

25. 考察

2022年度社会的インパクト評価から得られた知見と、2023年度以降の「PROMISE 金融経済教育セミナー」への提言は以下の通りである。

評価から得られた知見

プログラムへの提言

評価

事業実施による金融リテラシー向上効果の確認

- ① 客観的金融リテラシーの緩やかな向上
- ② 女子学生への高い効果

アクティブラーニング型による効果の確認

- ① 興味・関心、自己効力感の向上
- ② 外部知見の活用、横並びバイアスの向上
- ③ 投資行動への強い関心（損失回避行動）

継続的な社会的インパクト評価の実施

- ① 追跡調査による中間アウトカムの測定
- ② 全国的なモニタリング
- ③ 顧客への金融経済教育の提供
- ④ 社会的弱者への金融経済教育の提供

実施方法とコンテンツ

コースごととスコープの適切性の確認

- 各コースのスコープと対応する項目が有意に向上した

高い満足度と充足感

- アクティブラーニング型受講者によるセミナー満足度が非常に高く、一連の受講で金融経済の学習に対する充足感を感じる学生が見受けられる

効果の高い対象校の実施絞り込み

データに基づいた高い効果を示す学校への注力

プログラム・コンテンツの多様化

複数コンテンツを組み合わせた継続的なプログラム・コンテンツ構成

満足度と学習意欲の喚起の両立

学生のセミナー満足度と学習意欲の喚起を両立するプログラム運営

26-1. 分析から得られた知見

1. 客観的金融リテラシーへのインパクト

客観的金融リテラシー（金融リテラシー・マップ分野）は、セミナー受講によりスコアが緩やかに向上し、未受講群のスコアが減少傾向にあった。なお、以下の属性において、PROMISE 金融経済教育セミナーによる**客観的金融リテラシー向上への効果**が期待できる。

- 両コースともに特に効果が期待される属性
 - (1) 女子学生
- アクティブラーニング型
 - (1) 一般校
- 聴講集中型
 - (1) 男子学生
 - (2) 専門学科

2. 主観的金融リテラシーへのインパクト

主観的金融リテラシーは、セミナー受講により多くの項目でスコアが向上した。特に、**アクティブラーニング型セミナーによる主観的金融リテラシー向上は全ての属性に効果**が期待できる。なお、以下の属性において、PROMISE 金融経済教育セミナーによる客観的金融リテラシー向上への効果が期待できる。

- アクティブラーニング型
 - (1) 全属性
- 聴講集中型
 - (1) 男子学生
 - (2) 一般校
 - (3) 専門学科

26-2. 分析から得られた知見

3. アクティブラーニング型実施によるインパクトの確認

(1) 行動特性・考え方

- 学生が積極的に学びに参加するアクティブラーニング型において、「損失回避行動」、「外部知見の活用」においてポジティブな変化が見られており、投資など題材を通して望ましい行動特性・考え方を醸造する本コースの目的や手法と、その効果が合致していると推測できる。

(2) 資質・能力の育成プロセス

- 資質・能力の育成プロセスは、聴講集中型がバランスよく、緩やかにスコアが向上するのに対して、アクティブラーニング型では、「興味・関心」、「批判的思考力」、「外部知見の活用」を中心に高い効果が確認されている。これは、学生が積極的に学びに参加するアクティブラーニング型の受講が、金融経済分野に対する関心喚起や外部知見の活用の重要性を認識する契機となったと考えられ、本コースの目的や手法と、その効果が合致していると推測できる。
- 資質・能力の育成プロセスは、聴講集中型では多くの項目で男子学生の方がスコアの向上率が高いのに対し、アクティブラーニング型では「知識・理解」、「興味・関心」、「自己効力感」において女子学生の方がスコアの向上率が高い。
- 女子学生に対して、金融経済への関心喚起や自分事化、自己効力感の向上に働きかけるには、アクティブラーニング型の方が効果的であると推察できる。

26-3. 分析から得られた知見

4. 投資行動への関心喚起（「損失回避行動」への影響）

アクティブラーニング型、聴講集中型共に、2021年度評価と同様に、リスクのある投資行為を行うかどうか問うた「**損失回避行動**」においてのみスコアが大きく減少していた。高校生の多くは「投資にはリスクが含まれる」ことを当然と考えており、セミナーを受講したことで金融経済の中でも、特に**投資に関する関心が高まった**と考えられる。特に、投資を題材としたアクティブラーニング型を受講した場合、このスコアが大きく変化したことから、セミナー実施が「損失回避行動」が示す、投資行動への関心喚起に大きく影響を及ぼしていると考えられる。

5. 金融経済教育の重要性に関する意識向上

定性調査の結果から、セミナー受講により、学校において金融経済を学ぶことの重要性について考える高校生が増えていたことから、PROMISE 金融経済教育セミナーが**高校生の金融経済教育導入に関する意識向上に効果**があったと考えられる。なお、定性分析からは、以下のポジティブな変化が確認された。

- リスク行動の認識や予防意識の変化
- 情報収集に関する意識の向上
- 様々な金融経済に関する情報への関心喚起
 - 投資のポジティブな側面・ネガティブな側面
 - 税金の納め方や方法
 - 年金
 - 預金や利息の仕組み

26-4. 分析から得られた知見

6. PROMISE 金融経済教育セミナーへの高い満足度と充足感

アクティブラーニング型受講者への定性調査から、PROMISE 金融経済教育セミナーへの高い満足度が確認された。しかし、同時に「満足度が高いから、しばらくは受講しなくても問題ない」、「この1回で十分学べた気がしている」という意見もあった。継続的な受講を目指す場合、満足度とさらなる学習意欲の喚起を両立させることが、今後の課題と言える。

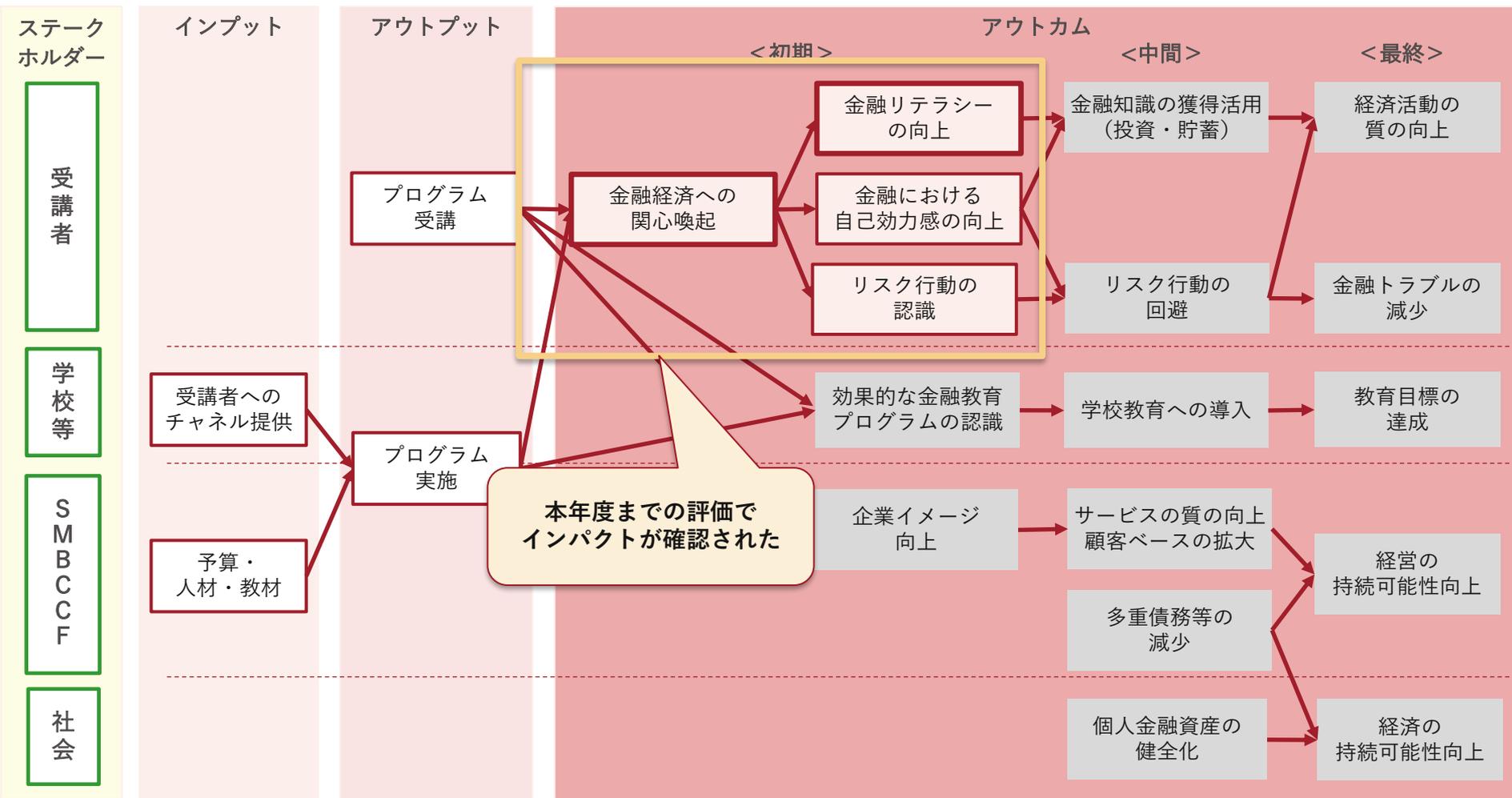
7. 自己効力感の変化（2021年度評価との比較）

先行研究にて金融経済教育により成果が認められている自己効力感について、2021年度は聴講集中型に対して、一般性セルフ・エフィカシー尺度（General Self-Efficacy Scale: GSES）により測定したが、受講群・未受講群共に大きな変化は見られなかった。

本評価では、設問数を絞り再調査したところ、アクティブラーニング型を受講した学生においては自己効力感にポジティブな変化が見られたことから、自己効力感の向上にアクティブラーニング型のような参加型セミナーが有効であると推察される。

27. 分析から得られた知見：ロジックモデル

2021年度社会的インパクト評価から、「PROMISE 金融経済教育セミナー」のアウトカムとして、「金融経済への関心喚起」・「金融リテラシーの向上」・「金融における自己効力感の向上」・「リスク行動の認識」が確認された。



28. 今後への提案

2021年度及び2022年度社会的インパクト評価により、PROMISE 金融経済教育セミナーがもたらす初期アウトカムに関しては実証することが出来たが、継続的、また本業とのリンケージとなる社会的インパクト評価を導入することによって、PROMISE 金融経済教育セミナーがもたらす中間アウトカムから最終アウトカムについて検討することが可能となる。

導入検討案	事業イメージ	SMBC-CF事業へのインパクト
複数年度にわたる、複数セグメントに対する追跡調査	<ul style="list-style-type: none">高校生だけではなく、大学生・社会人セグメントを加え、規模を拡大して経年での行動変容を調査、プログラム実施のインパクトを評価する	<ul style="list-style-type: none">中間アウトカムの測定が可能となり、金融経済教育セミナー事業全体の社会的インパクトの推計、社会的な発信が可能効果的な事業設計についての示唆が得られる
顧客情報と紐づいた、オンライン金融経済教育コンテンツの提供	<ul style="list-style-type: none">視聴に紐づくアンケート等により、顧客情報としての金融リテラシーをリスク情報として収集延滞リスクの高い顧客を特定、オンラインセミナー受講にインセンティブを付与	<ul style="list-style-type: none">社会貢献としてだけではなく、延滞率や貸し倒れ等の低減による、本業の収益率改善への貢献の可能性出張授業の形式ではなく、申し込みチャンネルの大きな割合を占めるオンライン申し込み層へリーチ
シングルマザー等、特定の社会的弱者に対する支援策としての金融経済教育の実施	<ul style="list-style-type: none">特定の社会的弱者層に対して金融経済教育のコンテンツを提供生活困窮者支援NPOや行政等との協働事業により、具体的な社会課題の解決への貢献を実証	<ul style="list-style-type: none">金融事業を通じて社会課題を解決、社会にインパクトをもたらすSMBCコンシューマーファイナンス株式会社の社会的価値の創造社会課題の進展を未然に防ぐ有効な手段としての金融経済教育の実施が可能

IV. Appendix

「PROMISE 金融経済教育セミナー」
社会的インパクト評価概要

金融経済教育とは

1. 定義

- 金融経済教育：金融リテラシー（広義）を育てる教育のこと
- 金融リテラシー：「金融に関する健全な意思決定を行い、究極的には金融面での個人のよい暮らし（well-being）を達成するために必要な、金融に関する意識、知識、技術、態度および行動の総体」（OECD）
 - 金融広報中央委員会では、金融リテラシー・マップ（最低限身に付けるべき金融リテラシーにおけるスキル）として、①家計管理、②生活設計、③金融知識、④外部知見の活用、の4分野15項目を設定している。

2. 歴史

- **米国**では、1960年代から消費者教育が始まっている。連邦教育法で「経済学」が主要教科に位置づけられており、政府部門の SEC、U.S. Dept. of Education、FRB 等の協力のもと NPO が主導的役割を果たし、実質的な学習指導要領に相当するスタンダード（ベンチマーク）の作成、教員への指導、教材の提供等を行っている。
- **英国**では、2002年の教育改革により、経済教育を含む「Citizenship」が必須科目となり、さらに2014年からは公的機関が主導した金融経済教育を公立学校において必修科目として実施している。
- 米英共に、「金融リテラシー」とは別に「金融ケイパビリティ」という指標を用い、「知識とスキルとアクセスに基づいて金融資源（リソース）を効果的に管理する能力」に着目した教育を行っている。
- **日本**では、「基本方針2005」に金融経済教育に関する事項が盛り込まれたこと等から、平成17年度以降、金融経済教育の推進に関する様々な取組みが行われているが、積極的な学校教育への導入は行われていない。一方、NPO法人や金融機関が、学校における経済・金融教育に役立つ各種学習教材の提供、一般消費者向けのセミナーや講演会の開催等、多岐にわたる活動を行っている。

金融経済教育：日本における他社実践事例

1. みずほフィナンシャルグループ <https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/education/index.html>

- 事業形式：出張講座・教材作成・教員支援
- 事業内容：初等・中等教育分野を中心に、東京学芸大学との共同研究や教職員向け金融経済教育支援を実施。独自の教育テキスト「お金のお仕事」は東京学芸大学初等・中等教育で使用されている。
- 実績：2006年から2020年度までの累計受講者数は193,549名

2. NPO法人日本FP協会 https://www.jafp.or.jp/personal_finance/about/meeting/

- 事業形式：公開講座・出張講座・教材作成・教員支援
- 事業内容：パーソナルファイナンス教育に関する知識・経験を持つファイナンシャル・プランナーによる出張授業、学校・教育関係者を対象とした教材提供、セミナーを実施している。
- 実績：年間約10校での出張講座、3回（参加者数各20名程度）の教員向け研修

3. 認定特定非営利活動法人育て上げネット・新生銀行 <https://moneyconnection.jp/performance/>

- 事業形式：出張講座
- 事業内容：高校生を主な対象に、若年層の無業化予防を目指した日本初の金銭基礎プログラム「MoneyConnection®」を実施している。
- 実績：累計1,243校、158,270名の高校生が参加（2006年10月～2021年3月）

金融経済教育：海外における実践事例

1. ジャンプスタート連盟 (Jump\$tart Coalition for Personal Finance) <https://www.jumpstart.org/>

- 事業形式：教材作成・教員支援・調査研究・情報提供
- 事業内容：幼稚園から高校生までを対象とした金融経済教育の教材を作成しており、全米の高校教育におけるスタンダードとして認知されている。教員志望者向け研修や実態調査も実施。
- 実績：無償提供教材が全米9割の州で導入もしくは参考活用されている

2. 全米経済教育協議会 (Council For Economic Education) <https://www.councilforeconed.org/>

- 事業形式：教材作成・教員支援
- 事業内容：高校までの教員向け研修プログラムの実施、経済・個人金融の学習内容に関する任意の全米基準を作成している。金融知識レベルの実態調査も実施。
- 実績：2019年度は5000人以上の教員がプログラムに参加

3. ジュニア・アチーブメント (Junior Achievement) <https://www.jaworldwide.org/>

- 事業形式：出張講座・教材提供
- 事業内容：青少年向けに金融・経済関係を含む各種体験型演習プログラムや教材を提供。
- 実績：世界120か国にて毎年約295,000人の教員がプログラムを導入している

金融経済教育がもたらす社会的インパクト

1. 期待される社会的インパクト（1～3に関しては金融経済教育研究会報告書より）

- （1）生活スキルの向上と家計の健全性の実現
- （2）金融サービスの質の向上
- （3）日本の資産形成の仕組みを変え経済成長に必要なリスクマネーを供給する
- （4）金融トラブルへの対応力の向上・予防

2. 国内外のベストプラクティス

ジャンプスタート個人金融連盟（Jump\$tart Coalition for Personal Finance）



- 幼稚園から高校卒業までの層を対象とした金融教育活動を進めている米国の代表的な非営利団体。1995年から活動を開始し、49の州付属組織の他、政府機関、学校、非営利団体、民間企業等、150以上の団体と連携している。
- 教員向け研修に特に力を入れており、1998年より学校関係者向けに「全米 K-12 個人金融教育基準（National Standards in K12 Personal Finance Education）」を作成。ニューヨーク州、ニュージャージー州やサウスカロライナ州等、多くの州の学校の金融学習基準の策定に利用され、また他の団体が教材等を作成する際の基準としても一般的に利用されており、米国の学校における金融教育の学習基準モデルの1つとして認知されている。
- ①金融に関する責任と判断、②収入と職業、③お金の管理と計画、④信用と負債、⑤リスク管理と保険、⑥貯蓄と投資の合計6つの主要分野に分類されている。

先行研究レビュー：金融経済教育の評価指標

レベル	評価指標	評価方法	先行研究例
アウトプット	金融リテラシー (客観)	知識・理解レベル (テストによる回答率)	<ul style="list-style-type: none"> Walstad, W. B., Rebeck, K., & MacDonald, R. A. (2010). Danes, S. M., Huddleston-Casas, C., & Boyce, L. (1999). Harter, Cynthia L., and John F.R. Harter.(2009) Varcoe, Karen P., Allen Martin, Zana Devitto, and Charles Go. (2005) 金融広報委員会(2016, 2019)
アウトプット	金融リテラシー (主観)	意識調査による自己評価	<ul style="list-style-type: none"> Xiao, J. J., Serido, J., & Shim, S.(2012)
アウトカム	資産額・貯蓄	参加者に対するアンケート等による定量評価	<ul style="list-style-type: none"> Hilgert and colleagues(2003) Bernheim, B. D., Garrett, D. M., & Maki, D. M.(2001) Danes, S. M., Huddleston-Casas, C., & Boyce, L.(1999)
アウトカム	リスク回避行動	リスクテイキング尺度、実態調査、意識調査による定量・定性評価	<ul style="list-style-type: none"> Lyons, A. C. (2004)、 Xiao, J. J., Ahn, S. Y., Serido, J., & Shim, S. (2014a).
アウトカム	クレジットスコア・延滞率	実態調査による定量評価	<ul style="list-style-type: none"> Brown, A. M., Collins, J. M., Schmeiser, M. D., & Urban, C. (2014)
アウトカム	自己効力感	SE尺度による定量評価	<ul style="list-style-type: none"> Danes, S. M., Huddleston-Casas, C., & Boyce, L. (1999). Lown, J. M. (2011)

先行研究レビュー：プログラム実施条件とインパクト

先行研究に基づく社会的インパクトを最大化させるプログラムの実施条件

・プログラムが有効に作用する対象者

1. 年齢層によって提供すべきプログラム内容（有効な指標）が異なる。(Xiao, J. J., and O'Neill, B., 2016)
 - 大学生：主観的金融リテラシー、客観的金融リテラシー、金融ケイパビリティ
 - 高校生：金融ケイパビリティ
 - 社会人：望ましい金融行動
2. 女性への金融経済教育がより有効である。(Chen, Haiyang, and Ronald P. Volpe. 2002; Lusardi, Mitchell, and Curto 2010; Lusardi and Mitchell 2009; Lusardi and Tufano 2009a, 2009b)
 - 金融リテラシーが男性よりも女性の方が低い傾向にあり、教育による効果が高い。

・プログラムの内容

1. パーソナルファイナンス教育
 - ライフサイクル・目標に合わせた知識・能力を獲得できるプログラムが有効である(Champlain College's Center for Financial Literacy, 2017)
2. 複数回（1時間×6回等）での構成
 - 半年（月1回）もしくは1週間集中（5～6日）以上が有効である(Council for Economic Education, 2020)
3. 指導教員の理解度・習熟度
 - 研修プログラム受講の有無により学生の達成度に差が出る(Walstad and Rebeck, 2005a)
4. 数学的トレーニングが有効である(Shawn Cole, Anna Paulson and Gauri Kartini Shastry, 2014)

想定される社会的インパクト評価の活用方法

本評価にて得られた知見を活用し、事業の経営、プログラムの運営に対して、以下の様な改善や事業構築を行うことが可能である。

活用方法	参考となる 本評価における成果物
説明責任の履行 <ul style="list-style-type: none">社会的インパクト評価を基にした投資家への事業成果の説明統合報告でのレポートニング	<ul style="list-style-type: none">社会的インパクト評価モデル社会的インパクト評価報告書
より効果的な事業への改善 <ul style="list-style-type: none">事業実施による受講者、教育機関、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社、社会等、異なるステークホルダーに対する社会的成果の拡大対象者やプログラム実施方法の見直し	<ul style="list-style-type: none">社会的インパクト評価モデル社会的インパクト評価報告書
プログラムの構築 <ul style="list-style-type: none">実施体制の見直し実施期間・プログラム内容の見直し	<ul style="list-style-type: none">2022年度以降の実施プログラム提案

定量調査の対象校一覧

本調査における対象校の属性とアンケート回答者数は、以下の通りである。

学校名	担当 プラザ名	属性	受講コース	セミナー実施日	参加者数 (人)		
					属性	事前	事後
愛知県内私立高等学校	名古屋	進学校	アクティブラーニング	7月14日	男性	91	81
					女性	76	69
					その他	6	14
					全体	173	164
鹿児島県内私立高等学校	鹿児島	進学校	アクティブラーニング	10月22日	男性	25	30
					女性	34	27
					その他	8	6
					全体	67	63
北海道内公立高等学校	札幌	一般校	アクティブラーニング	12月5日	男性	23	19
					女性	17	15
					その他	6	6
					全体	46	40
鹿児島県内公立高等学校	鹿児島	一般校	アクティブラーニング	11/7, 11/14	男性	4	7
					女性	9	9
					その他	2	3
					全体	15	19
広島県内公立高等学校	広島	一般校	アクティブラーニング	12月14日	男性	16	15
					女性	14	11
					その他	0	0
					全体	30	26
広島県内公立高等学校	広島	専門学科	アクティブラーニング	9月27日	男性	103	68
					女性	166	106
					その他	18	8
					全体	287	182
北海道内公立高等学校	札幌	進学校	聴講集中	12月2日	男性	80	67
					女性	92	74
					その他	11	19
					全体	183	160
宮城県内公立高等学校	仙台	一般校	聴講集中	11月30日	男性	27	48
					女性	29	47
					その他	8	7
					全体	64	102
広島県内公立高等学校B	広島	一般校	聴講集中	11月30日	男性	42	44
					女性	57	59
					その他	8	3
					全体	107	106
北海道内公立高等学校	札幌	専門学科	聴講集中	11/7~11/11	男性	41	40
					女性	4	4
					その他	1	1
					全体	46	45

学校名	担当 プラザ名	属性	受講コース	セミナー実施日	参加者数		
					属性	事前	事後
愛媛県内公立高等学校1年生	松山	専門学科	聴講集中	12月8日	男性	15	14
					女性	22	24
					その他	3	1
					全体	40	39
愛媛県内公立高等学校2年生	松山	専門学科	聴講集中	12月8日	男性	11	11
					女性	28	21
					その他	0	0
					全体	39	32
愛媛県内公立高等学校3年生	松山	専門学科	聴講集中	12月8日	男性	8	8
					女性	26	26
					その他	0	0
					全体	34	34
大阪府内私立高等学校	梅田	定時制等	聴講集中	11~12月	男性	10	13
					女性	12	11
					その他	0	0
					全体	22	24
富山県内公立高等学校	金沢	定時制等	聴講集中	11月25日	男性	1	1
					女性	13	11
					その他	1	1
					全体	15	13
未受講群		進学校	-	-	男性	95	48
					女性	149	94
					その他	0	0
					全体	244	142
未受講群		一般校	-	-	男性	35	17
					女性	56	31
					その他	0	0
					全体	91	48
未受講群		専門学科	-	-	男性	9	5
					女性	7	4
					その他	0	0
					全体	16	9
未受講群		定時制等	-	-	男性	22	7
					女性	38	18
					その他	0	0
					全体	60	25

定量調査の対象校の結果一覧(1)

本調査における対象校のアンケート結果は、以下の通りである。

学校名	学校属性	受講コース	属性	金融リテラシー									客観的金融リテラシー																					
				客観的金融リテラシー			主観的金融リテラシー			家計管理			生活設計			金融知識 金融取引の基本			金融知識 金融・経済の基礎			金融知識 ローン・クレジット			金融知識 保険			金融知識 資産形成			外部知見の活用			
				事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	
愛知県内私立高等学校	進学校	アクティブラーニング	男性	46.7	45.5	▲1.2	44.0	44.0	▲0.0	58.2	53.7	▲4.5	39.6	52.5	12.9	74.7	69.1	▲5.6	42.7	40.5	▲2.1	27.5	24.7	▲2.8	37.0	32.9	▲4.1	40.3	39.9	▲0.4	53.5	50.6	▲2.9	
			女性	47.7	47.4	▲0.2	37.1	37.4	0.3	55.9	60.9	4.9	43.4	52.9	9.5	79.8	75.4	▲4.5	30.5	33.6	3.1	34.9	29.7	▲5.2	37.7	37.2	▲0.5	38.6	35.7	▲2.8	60.5	54.1	▲6.4	
			その他	46.5	40.2	▲6.3	46.7	47.1	0.5	66.7	42.9	▲23.8	33.3	39.3	6.0	77.8	66.7	▲11.1	30.6	36.9	6.3	25.0	21.4	▲3.6	44.4	31.0	▲13.5	33.3	38.1	4.8	61.1	45.2	▲15.9	
			全体	47.1	45.9	▲1.3	41.0	41.5	0.4	57.5	55.8	▲1.7	41.0	51.5	10.5	77.1	71.5	▲5.5	36.9	37.3	0.4	30.6	26.5	▲4.1	37.6	34.6	▲3.0	39.3	38.0	▲1.3	56.8	51.6	▲5.2	
鹿児島県内私立高等学校	進学校	アクティブラーニング	男性	43.2	40.1	▲3.1	42.4	44.0	1.6	44.0	50.0	6.0	32.0	46.7	14.7	69.3	60.0	▲9.3	42.0	35.0	▲7.0	34.0	26.7	▲7.3	42.7	28.9	▲13.8	33.3	32.2	▲1.1	48.0	41.1	▲6.9	
			女性	46.4	59.0	12.5	37.6	43.0	5.3	52.9	59.3	6.3	44.1	61.1	17.0	64.7	82.7	18.0	31.4	38.9	7.5	38.2	40.7	2.5	38.2	48.1	9.9	43.1	59.3	16.1	58.8	81.5	22.7	
			その他	43.5	35.1	▲8.4	27.5	36.7	9.2	81.3	50.0	▲31.3	31.3	25.0	▲6.3	75.0	33.3	▲41.7	33.3	41.7	8.3	31.3	41.7	10.4	29.2	16.7	▲12.5	33.3	33.3	0.0	33.3	38.9	5.6	
			全体	44.9	47.7	2.8	38.2	42.9	4.6	53.0	54.0	1.0	38.1	50.8	12.7	67.7	67.2	▲0.5	35.6	37.3	1.7	35.8	34.1	▲1.7	38.8	36.0	▲2.8	38.3	43.9	5.6	51.7	58.2	6.5	
北海道内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	29.3	24.6	▲4.7	28.7	25.3	▲3.4	45.7	36.8	▲8.8	26.1	23.7	▲2.4	44.9	38.6	▲6.3	22.5	24.6	2.1	19.6	23.7	4.1	15.9	8.8	▲7.2	26.1	17.5	▲8.5	33.3	22.8	▲10.5	
			女性	29.3	21.3	▲8.0	16.5	14.7	▲1.8	55.9	43.3	▲12.5	11.8	10.0	▲1.8	51.0	42.2	▲8.8	7.8	5.6	▲2.3	11.8	13.3	1.6	7.8	8.9	1.0	9.8	6.7	▲3.1	35.3	40.0	4.7	
			その他	18.1	25.3	7.3	26.7	6.7	▲20.0	8.3	41.7	33.3	16.7	8.3	▲8.3	27.8	44.4	16.7	22.2	13.9	▲8.3	25.0	16.7	▲8.3	5.6	16.7	11.1	16.7	2.2	5.6	22.2	38.9	16.7	
			全体	25.8	23.4	▲2.4	23.9	18.5	▲5.4	44.6	40.0	▲4.6	19.6	16.3	▲3.3	44.9	40.8	▲4.1	17.0	15.8	▲1.2	17.4	18.8	1.4	11.6	10.0	▲1.6	18.8	14.2	▲4.7	32.6	31.7	▲0.9	
鹿児島県内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	9.9	17.6	7.7	5.0	25.7	20.7	12.5	35.7	23.2	0.0	7.1	7.1	16.7	23.8	7.1	12.5	23.8	11.3	12.5	21.4	8.9	0.0	9.5	9.5	8.3	19.0	10.7	16.7	0.0	▲16.7	
			女性	20.6	36.8	16.2	22.2	35.6	13.3	38.9	55.6	16.7	22.2	16.7	▲5.6	37.0	59.3	22.2	16.7	22.2	5.6	16.7	22.2	5.6	14.8	33.3	18.5	11.1	33.3	22.2	7.4	51.9	44.4	
			その他	0.0	27.1	27.1	20.0	20.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	44.4	44.4	0.0	16.7	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	33.3	33.3		
			全体	15.0	28.2	13.2	17.3	29.5	12.1	26.7	44.7	18.1	13.3	15.8	2.5	26.7	43.9	17.2	13.3	21.9	8.6	13.3	23.7	10.4	8.9	19.3	10.4	8.9	26.3	17.4	8.9	29.8	20.9	
広島県内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	28.8	34.0	5.3	41.3	42.7	1.4	34.4	36.7	2.3	25.0	26.7	1.7	37.5	57.8	20.3	27.1	30.0	2.9	25.0	30.0	5.0	25.0	26.7	1.7	22.9	33.3	10.4	33.3	31.1	▲2.2	
			女性	27.4	27.5	0.1	24.3	27.3	3.0	46.4	59.1	12.7	25.0	13.6	▲11.4	50.0	54.5	4.5	10.7	10.6	▲0.1	10.7	18.2	7.5	19.0	18.2	▲0.9	19.0	9.1	▲10.0	38.1	36.4	▲1.7	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	28.1	31.3	3.1	33.3	36.2	2.8	40.0	46.2	6.2	25.0	21.2	▲3.8	43.3	56.4	13.1	19.4	21.8	2.4	18.3	25.0	6.7	22.2	23.1	0.9	21.1	23.1	2.0	35.6	33.3	▲2.2	
広島県内公立高等学校	専門学科	アクティブラーニング	男性	34.4	30.5	▲3.9	46.6	49.1	2.5	35.9	37.5	1.6	27.2	24.3	▲2.9	45.0	33.8	▲11.2	32.5	32.1	▲0.4	36.4	27.9	▲8.5	25.2	24.5	▲0.7	35.9	38.2	2.3	37.2	25.5	▲11.7	
			女性	38.2	29.6	▲8.6	36.5	37.7	1.2	50.6	47.2	▲3.4	29.8	24.5	▲5.3	63.9	53.8	▲10.1	22.4	16.5	▲5.9	30.1	22.6	▲7.5	24.9	17.3	▲7.6	33.1	21.1	▲12.1	50.8	33.6	▲17.2	
			その他	17.7	19.3	1.6	15.6	17.5	1.9	30.6	25.0	▲5.6	22.2	18.8	▲3.5	25.9	12.5	▲13.4	14.8	16.7	1.9	5.6	18.8	13.2	11.1	16.7	5.6	13.0	12.5	▲0.5	18.5	33.3	14.8	
			全体	35.6	29.5	▲6.1	38.8	41.1	2.3	44.1	42.6	▲1.5	28.4	24.2	▲4.2	54.7	44.5	▲10.2	25.6	22.3	▲3.2	30.8	24.5	▲6.4	24.2	20.0	▲4.2	32.9	21.1	▲11.8	43.9	30.6	▲13.3	
北海道内公立高等学校	進学校	聴講集中	男性	33.4	31.8	▲1.6	40.5	42.4	1.9	42.5	43.3	0.8	28.1	23.1	▲5.0	46.3	57.7	11.5	24.6	24.6	0.0	30.0	18.7	▲11.3	23.3	19.4	▲3.9	32.9	26.4	▲6.5	39.6	41.3	1.7	
			女性	25.3	23.2	▲2.1	29.3	25.7	▲3.7	34.2	33.1	▲1.1	27.2	17.6	▲9.6	38.0	39.6	1.6	13.8	15.1	1.3	19.6	20.9	1.4	19.6	13.5	▲6.1	16.3	14.9	▲1.4	33.7	30.6	▲3.1	
			その他	11.7	9.5	▲2.2	9.1	13.7	4.6	31.8	23.7	▲8.1	4.5	5.3	0.7	15.2	14.0	▲1.1	7.6	7.9	0.3	13.6	7.9	▲5.7	0.0	0.0	0.0	6.1	5.3	▲0.8	15.2	12.3	▲2.9	
			全体	28.0	25.2	▲2.9	33.0	31.3	▲1.8	37.7	36.3	▲1.5	26.2	18.4	▲7.8	40.3	44.2	3.9	18.1	18.2	0.1	23.8	18.4	▲5.3	20.0	14.4	▲5.7	23.0	18.5	▲4.4	35.2	32.9	▲2.2	
宮城県内公立高等学校	一般校	聴講集中	男性	12.0	18.5	6.6	29.6	37.9	8.3	7.4	18.8	11.3	7.4	13.5	6.1	17.3	18.1	0.8	14.2	17.4	3.2	14.8	22.9	8.1	9.9	15.3	5.4	9.9	22.2	12.3	14.8	20.1	5.3	
			女性	12.6	19.5	6.9	20.7	23.0	2.3	19.0	34.0	15.1	13.8	17.0	3.2	17.2	36.9	19.6	10.9	8.5	▲2.4	13.8	19.1	5.4	4.6	7.8	3.2	5.7	11.3	5.6	16.1	21.3	5.2	
			その他	5.7	8.6	2.9	7.5	8.6	1.1	12.5	14.3	1.8	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	8.3	11.9	3.6	12.5	7.1	▲5.4	4.2	14.3	10.1	0.0	14.3	14.3	8.3	0.0	▲8.3	
			全体	11.5	18.3	6.8	22.6	29.0	6.2	13.3	25.5	12.2	9.4	14.7	5.3	15.1	25.5	10.4	12.0	12.9	0.9	14.1	20.1	6.0	6.8	11.8	5.0	6.8	16.7	9.9	14.6	19.3	4.7	
広島県内公立高等学校B	一般校	聴講集中	男性	28.8	25.9	▲2.8	24.8	32.7	8.0	36.9	27.3	▲9.6	23.8	28.4	4.6	45.2	43.9	▲1.3	25.0	18.9	▲6.1	21.4	17.0	▲4.4	18.3	13.6	▲4.6	32.5	21.2	▲11.3	27.0	37.1	10.1	
			女性	28.3	26.4	▲1.8	33.3	26.1	▲7.2	32.5	33.9	1.4	28.1	28.8	0.7	48.5	48.0	▲0.5	17.3	13.6	▲3.7	22.8	17.8	▲5.0	18.7	15.8	▲2.9	21.6	20.3	▲1.3	36.8	33.3	▲3.5	
			その他	22.7	2.8	▲19.9	2.5	0.0	▲2.5	50.0	16.7	▲33.3	25.0	0.0	▲25.0	41.7	0.0	▲41.7	6.3	5.6	▲0.7	12.5	0.0	▲12.5	12.5	0.0	▲12.5	8.3	0.0	▲8.3	25.0	0.0	▲25.0	
			全体	28.1	25.6	▲2.5	27.7	28.1	0.4	35.5	30.7	▲4.9	26.2	27.8	1.7	46.7	45.0	▲1.8	19.5	15.6	▲3.9	21.5	17.0	▲4.5	18.1	14.5	▲3.6	24.9	20.1	▲4.8	32.1	34.0	1.9	

定量調査の対象校の結果一覧(3)

本調査における対象校のアンケート結果は、以下の通りである。

学校名	学校属性	受講コース	属性	行動特性・考え方																														
				収支把握			費用認識・資金計画			計画性			慎重性			消費傾向			横並びバイアス			損失回避行動			消費に関する自己評価			支払の認識			外部知見の活用			
				事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	
愛知県内私立高等学校	進学校	アクティブラーニング	男性	59.9	50.8	▲9.3	9.7	11.5	1.8	66.8	65.9	▲0.9	82.9	84.8	2.0	55.6	53.9	▲1.7	70.1	63.9	▲6.2	49.5	40.7	▲8.7	62.2	61.5	▲0.7	68.8	74.1	5.3	53.0	55.8	2.8	
			女性	57.9	51.4	▲6.4	8.8	7.9	▲0.9	63.4	65.2	1.8	76.6	77.7	1.1	58.1	58.8	0.8	66.6	63.5	▲3.1	72.4	66.7	▲5.7	51.8	50.7	▲1.1	63.7	64.9	1.2	54.2	54.2	▲0.0	
			その他	41.7	50.0	8.3	11.1	6.8	▲4.3	68.3	57.1	▲11.2	85.0	77.9	▲7.1	48.9	46.2	▲2.7	66.7	70.0	3.3	16.7	50.0	33.3	43.3	45.7	2.4	80.0	74.3	▲5.7	60.0	55.7	▲4.3	
			全体	58.4	50.9	▲7.5	9.4	9.6	0.2	65.4	64.9	▲0.5	80.2	81.2	1.0	56.5	55.1	▲1.3	68.4	64.0	▲4.4	58.4	52.4	▲6.0	57.0	55.6	▲1.4	66.9	70.2	3.3	53.8	55.1	1.4	
鹿児島県内私立高等学校	進学校	アクティブラーニング	男性	44.0	55.0	11.0	17.2	16.0	▲1.2	65.2	66.3	1.1	83.6	78.7	▲4.9	59.2	61.8	2.6	67.2	64.0	▲3.2	36.0	30.0	▲6.0	56.0	59.3	3.3	68.8	65.3	▲3.5	52.8	62.0	9.2	
			女性	50.0	51.9	1.9	12.3	13.3	1.0	66.8	71.9	5.1	81.2	84.1	2.9	67.1	68.6	1.6	62.9	71.9	8.9	58.8	66.7	7.8	55.3	47.4	▲7.9	52.4	67.4	15.1	57.6	63.7	6.1	
			その他	62.5	58.3	▲4.2	10.9	13.9	3.0	72.5	75.0	2.5	80.0	76.7	▲3.3	59.2	48.9	▲10.3	95.0	73.3	▲21.7	62.5	33.3	▲29.2	50.0	60.0	10.0	70.0	70.0	0.0	50.0	53.3	3.3	
			全体	49.3	54.0	4.7	13.9	14.6	0.7	66.9	69.5	2.7	81.9	80.8	▲1.1	63.2	63.3	0.3	68.4	68.3	▲0.1	50.7	46.0	▲4.7	54.9	54.3	▲0.6	60.6	66.7	6.1	54.9	61.9	7.0	
北海道内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	50.0	39.5	▲10.5	11.1	16.7	5.6	67.4	67.9	0.5	75.2	71.6	▲3.6	53.6	57.7	3.9	1.6	63.5	64.2	0.7	52.2	52.6	0.5	47.0	49.5	2.5	67.0	68.4	1.5	64.3	49.5	▲14.9
			女性	55.9	60.0	4.1	17.2	10.6	▲6.6	62.4	64.0	1.6	74.7	83.3	8.6	57.3	55.6	▲1.7	65.9	72.0	6.1	88.2	80.0	▲8.2	47.1	42.7	▲4.4	58.8	80.0	21.2	41.2	48.0	6.8	
			その他	58.3	50.0	▲8.3	25.0	27.1	2.1	80.0	70.0	▲10.0	86.7	90.0	3.3	80.0	82.2	2.2	66.7	70.0	3.3	83.3	83.3	0.0	56.7	63.3	6.7	63.3	93.3	30.0	50.0	46.7	▲3.3	
			全体	53.3	48.8	▲4.5	15.1	15.9	0.8	67.2	66.8	▲0.4	76.5	78.8	2.2	60.4	61.3	0.9	64.8	68.0	3.2	69.6	67.5	▲2.1	48.3	49.0	0.7	63.5	76.5	13.0	53.9	48.5	▲5.4	
鹿児島県内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	12.5	57.1	44.6	10.4	11.3	0.9	70.0	60.0	▲10.0	75.0	78.6	3.6	56.7	59.0	2.4	80.0	71.4	▲8.6	50.0	71.4	21.4	95.0	68.6	▲26.4	40.0	54.3	14.3	30.0	31.4	1.4	
			女性	38.9	33.3	▲5.6	12.5	13.9	1.4	63.3	65.6	2.2	80.0	86.7	6.7	59.3	62.2	2.9	68.9	66.7	▲2.2	77.8	66.7	▲11.1	48.9	44.4	▲4.5	55.6	48.9	▲6.7	53.3	53.3	0.0	
			その他	25.0	33.3	8.3	0.0	9.7	9.7	55.0	70.0	15.0	70.0	86.7	16.7	40.0	55.6	15.6	90.0	93.3	3.3	100.0	33.3	▲66.7	60.0	53.3	▲6.7	70.0	60.0	▲10.0	20.0	53.3	33.3	
			全体	30.0	42.1	12.1	10.3	12.3	2.0	64.0	64.2	0.2	77.3	83.7	6.4	56.0	60.0	4.0	74.7	72.6	▲2.0	73.3	63.2	▲10.2	62.7	54.7	▲7.9	53.3	52.6	▲0.7	42.7	45.3	2.6	
広島県内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	62.5	46.7	▲15.8	21.4	17.5	▲3.9	67.5	62.7	▲4.8	85.0	82.0	▲3.0	44.6	43.6	▲1.0	78.8	69.3	▲9.4	68.8	13.3	▲55.4	50.0	38.7	▲11.3	81.3	78.7	▲2.6	52.5	72.0	19.5	
			女性	53.6	45.5	▲8.1	8.9	12.5	3.6	66.4	63.6	▲2.8	87.9	85.5	▲2.4	53.8	59.4	5.6	68.6	65.5	▲3.1	85.7	72.7	▲13.0	64.3	63.6	▲0.6	74.3	78.2	3.9	38.6	38.2	▲0.4	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			全体	58.3	46.2	▲12.2	15.6	15.4	▲0.2	67.0	63.1	▲3.9	86.3	83.5	▲2.9	48.9	50.3	1.4	74.0	67.7	▲6.3	76.7	38.5	▲38.2	56.7	49.2	▲7.4	78.0	78.5	0.5	46.0	57.7	11.7	
広島県内公立高等学校	専門学科	アクティブラーニング	男性	58.3	62.5	4.2	19.1	23.4	4.4	65.0	61.9	▲3.1	84.7	82.8	▲1.9	49.5	42.5	▲7.1	57.5	54.7	▲2.8	34.0	26.5	▲7.5	47.4	43.2	▲4.1	75.1	78.5	3.4	65.2	67.9	2.7	
			女性	65.1	63.7	▲1.4	14.2	14.1	▲0.1	64.0	63.0	▲1.0	81.1	83.0	1.9	54.6	52.4	▲2.2	63.0	58.7	▲4.3	66.9	53.8	▲13.1	46.1	48.1	2.0	72.4	74.9	2.5	55.5	57.5	2.0	
			その他	55.6	62.5	6.9	25.5	17.2	▲8.3	68.3	63.8	▲4.6	74.4	80.0	5.6	55.6	44.2	▲11.4	72.2	50.0	▲22.2	50.0	62.5	12.5	53.3	55.0	1.7	64.4	50.6	▲13.6	44.4	52.5	8.1	
			全体	62.0	63.2	1.2	16.6	17.7	1.1	64.6	65.8	1.2	82.8	80.8	▲2.0	48.4	43.1	▲5.3	48.1	56.8	▲8.8	54.0	44.0	▲10.0	47.6	40.0	▲7.6	62.9	76.5	33.6	61.2	61.2	2.9	
北海道内公立高等学校	進学校	聴講集中	男性	72.5	70.1	▲2.4	21.1	25.7	4.7	63.1	62.4	▲0.7	83.0	77.3	▲5.7	54.8	52.2	▲2.5	68.0	60.6	▲7.4	53.8	53.7	▲0.0	52.5	52.8	0.3	73.8	71.3	▲2.4	58.3	57.9	▲0.3	
			女性	59.2	62.2	2.9	18.4	23.8	5.3	63.8	64.5	0.7	79.0	80.1	1.1	52.9	49.4	▲3.5	67.8	57.6	▲10.3	79.3	75.7	▲3.7	47.4	46.8	▲0.6	65.2	70.5	5.3	48.3	52.2	3.9	
			その他	68.2	52.6	▲15.6	15.2	28.7	13.6	50.9	59.5	8.6	60.0	74.2	14.2	71.5	48.8	▲22.7	83.6	50.5	▲33.1	54.5	73.7	19.1	67.3	47.4	▲19.9	70.9	73.7	2.8	63.6	43.2	▲20.5	
			全体	65.6	64.4	▲1.2	19.4	25.2	5.8	62.7	63.0	0.3	79.6	78.3	▲1.4	54.8	50.5	▲4.3	68.9	58.0	▲10.9	66.7	66.3	▲0.4	50.8	49.4	▲1.4	69.3	71.2	2.0	53.6	53.5	▲0.1	
宮城県内公立高等学校	一般校	聴講集中	男性	42.6	64.6	22.0	28.5	30.6	2.1	60.4	65.8	5.5	80.6	85.2	5.2	48.4	43.1	▲5.3	48.1	52.9	4.8	70.4	47.9	▲22.5	47.4	44.2	▲3.2	73.3	78.3	5.0	63.0	61.7	▲1.3	
			女性	43.1	43.6	0.5	17.0	18.9	1.9	65.5	63.0	▲2.5	75.2	81.9	6.7	52.2	54.0	1.9	54.5	51.9	▲2.6	86.2	89.4	3.2	48.3	47.7	▲0.6	65.8	63.0	▲2.5	51.7	51.5	▲0.2	
			その他	25.0	35.7	10.7	32.8	38.1	5.3	56.3	58.6	2.3	63.8	74.3	10.5	55.8	47.6	▲8.2	65.0	45.7	▲19.3	87.5	42.9	▲44.6	55.0	48.6	▲6.4	55.0	65.7	10.7	32.5	42.9	10.4	
			全体	40.6	52.9	12.3	23.8	25.7	1.9	62.2	64.0	1.8	75.8	82.9	7.2	51.0	48.1	▲2.6	63.1	52.0	▲11.2	79.7	66.7	▲13.0	48.8	46.1	▲2.7	67.5	70.4	2.9	54.1	55.7	1.6	
広島県内公立高等学校	一般校	聴講集中	男性	54.8	52.3	▲2.5	21.2	20.2	▲1.1	57.4	58.0	0.6	74.5	76.6	2.1	46.3	42.4	▲3.9	51.9	54.1	▲2.8	61.9	50.0	▲11.4	48.8	50.0	1.4	67.6	68.2	0.6	45.7	53.6	7.9	
			女性	52.6	58.5	5.8	18.1	20.3	2.1	62.1	64.6	2.5	80.0	79.8	▲0.2	55.7	55.6	▲0.1	62.5	59.7	▲2.8	75.4	67.8	▲7.6	56.1	53.2	▲2.9	75.4	73.2	▲2.2	47.0	45.8	▲1.3	
			その他	68.8	66.7	▲2.1	26.0	9.7	▲16.3	73.8	73.3	▲0.4	86.3	73.3	▲12.9	55.0	66.7	11.7	80.0	66.7	▲13.3	75.0	33.3	▲41.7	60.0	80.0	20.0	65.0	40.0	▲25.0	32.5	20.0	▲12.5	
			全体	54.7	56.1	1.5	19.9	19.9	▲0.0	60.6	62.1	1.5	77.6	78.3	0.7	51.5	50.3	▲1.2	63.0	57.5	▲5.4	64.5	64.2	▲0.3	52.9	52.6	▲0.3	71.0	70.2	▲0.8	45.2	48.3	3.1	

定量調査の対象校の結果一覧(4)

本調査における対象校のアンケート結果は、以下の通りである。

学校名	学校属性	受講コース	属性	行動特性・考え方																													
				収支把握			費用認識・資金計画			計画的性			慎重性			消費傾向			横並びバイパス			損失回避行動			消費に関する自己評価			支払の認識			外部知見の活用		
				事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量
北海道内公立高等学校	専門学科	聴講集中	男性	62.2	73.8	▲11.6	13.6	21.6	7.9	60.5	63.0	2.5	76.1	77.3	1.2	46.3	45.0	▲1.3	63.4	54.5	▲8.9	53.7	52.5	▲1.2	50.2	50.0	▲0.2	71.2	79.5	8.3	48.3	65.5	17.2
			女性	87.5	62.5	▲25.0	18.8	21.9	3.1	72.5	75.0	2.5	75.0	87.5	12.5	70.0	58.3	▲11.7	65.0	60.0	▲5.0	100.0	75.0	▲25.0	60.0	50.0	▲10.0	75.0	80.0	5.0	85.0	95.0	10.0
			その他	200.0	0.0	####	70.8	0.0	▲70.8	150.0	50.0	▲100.0	250.0	80.0	▲170.0	146.7	33.3	▲113.4	180.0	60.0	▲120.0	200.0	100.0	▲100.0	200.0	20.0	▲180.0	200.0	80.0	▲120.0	140.0	20.0	▲120.0
			全体	67.4	71.1	3.7	15.3	21.1	5.8	63.5	63.8	0.3	79.8	78.2	▲1.6	50.6	45.9	▲4.7	66.1	55.1	▲11.0	60.9	55.6	▲5.3	53.9	49.3	▲4.6	74.3	79.6	5.2	53.5	67.1	13.6
愛媛県内公立高等学校1年生	専門学科	聴講集中	男性	63.3	46.4	▲16.9	13.6	8.6	▲5.0	60.7	62.1	1.5	83.3	78.6	▲4.8	56.0	50.5	▲5.5	54.7	51.4	▲3.2	40.0	35.7	▲4.3	50.7	47.1	▲3.5	62.7	84.3	21.6	64.0	68.6	4.6
			女性	54.5	56.3	1.7	11.7	9.0	▲2.7	60.9	63.8	2.8	83.6	84.6	0.9	65.8	63.3	▲2.4	59.1	64.2	5.1	81.8	75.0	▲6.8	63.6	60.0	▲3.6	67.3	75.8	8.6	67.3	59.2	▲8.1
			その他	100.0	100.0	0.0	31.9	66.7	34.7	60.0	60.0	0.0	80.0	80.0	0.0	60.0	40.0	▲20.0	53.3	40.0	▲13.3	66.7	0.0	▲66.7	53.3	40.0	▲13.3	73.3	80.0	6.7	73.3	80.0	6.7
			全体	61.3	53.8	▲7.4	14.0	10.4	▲3.6	60.8	63.1	2.3	83.3	82.3	▲0.9	61.7	58.1	▲3.5	57.0	59.0	2.0	65.0	59.0	▲6.0	58.0	54.9	▲3.1	66.0	79.0	13.0	66.5	63.1	▲3.4
愛媛県内公立高等学校2年生	専門学科	聴講集中	男性	54.5	31.8	▲22.7	14.4	18.9	4.5	65.5	61.8	▲3.6	78.2	69.1	▲9.1	50.9	62.4	11.5	52.7	56.4	3.6	54.5	54.5	0.0	49.1	60.0	10.9	74.5	74.5	0.0	69.1	41.8	▲27.3
			女性	57.1	26.2	▲31.0	5.5	4.8	▲0.7	62.9	57.6	▲5.2	86.1	80.5	▲5.6	66.2	57.1	▲9.0	64.3	66.7	2.4	75.0	61.9	▲13.1	53.6	44.8	▲8.8	70.7	68.6	▲2.1	52.9	55.2	2.4
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	56.4	28.1	▲28.3	8.0	9.6	1.6	63.6	59.1	▲4.5	83.8	76.6	▲7.3	61.9	59.0	▲2.9	61.0	63.1	2.1	69.2	59.4	▲9.9	52.3	50.0	▲2.3	71.8	70.6	▲1.2	57.4	50.6	▲6.8
愛媛県内公立高等学校3年生	専門学科	聴講集中	男性	50.0	68.8	18.8	34.4	45.3	10.9	62.5	70.0	7.5	72.5	73.8	1.3	44.2	48.3	4.2	45.0	55.0	10.0	50.0	25.0	▲25.0	45.0	42.5	▲2.5	77.5	75.0	▲2.5	65.0	80.0	15.0
			女性	57.7	65.4	7.7	19.1	17.8	▲1.3	64.2	70.0	5.8	82.3	83.5	1.2	53.3	58.5	5.1	50.0	60.8	10.8	69.2	61.5	▲7.7	51.5	56.2	4.6	77.2	72.3	▲4.9	53.1	53.8	0.8
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	55.9	66.2	10.3	22.7	24.3	1.6	63.8	70.0	6.2	80.0	81.2	1.2	51.2	56.1	4.9	48.8	59.4	10.6	64.7	52.9	▲11.8	50.0	52.9	2.9	77.6	72.9	▲4.7	55.9	60.0	4.1
大阪府内私立高等学校	定時制等	聴講集中	男性	65.0	46.2	▲18.8	9.2	8.3	▲0.8	57.0	57.7	0.7	76.0	62.9	▲13.7	45.3	50.8	▲5.4	74.0	69.2	▲4.8	100.0	69.2	▲30.8	46.0	49.2	3.2	56.0	60.0	4.0	44.0	47.7	3.7
			女性	66.7	54.5	▲12.1	5.9	3.8	▲2.1	65.0	60.0	▲5.0	76.7	74.5	▲2.1	63.3	58.8	▲4.5	65.0	52.7	▲12.3	66.7	100.0	33.3	48.3	49.1	0.8	51.7	54.5	2.9	43.3	38.2	▲5.2
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	65.9	58.3	▲7.6	7.4	7.6	0.3	61.4	65.4	4.1	76.4	74.2	▲2.2	55.2	58.1	2.9	69.1	68.3	▲0.8	81.8	87.5	5.7	47.3	54.2	6.9	53.6	63.3	9.7	43.6	43.3	▲0.3
富山県内公立高等学校	定時制等	聴講集中	男性	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	50.0	▲20.0	100.0	100.0	0.0	46.7	20.0	▲26.7	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	▲100.0	100.0	0.0	▲100.0	100.0	0.0	▲100.0	20.0	20.0	0.0
			女性	53.8	59.1	5.2	18.6	10.6	▲8.0	67.7	70.0	2.3	83.8	85.5	1.6	57.9	64.2	6.3	72.3	80.0	7.7	92.3	72.7	▲19.6	55.4	41.8	▲13.6	63.1	72.7	9.7	55.4	56.4	1.0
			その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			全体	50.0	53.8	3.8	16.1	9.0	▲7.1	63.3	63.1	▲0.3	79.3	80.0	0.7	53.3	55.9	2.6	69.3	75.4	6.1	86.7	61.5	▲25.1	54.7	43.1	▲11.6	61.3	67.7	6.4	49.3	49.2	▲0.1
未受講群	進学校	-	男性	61.1	65.6	4.6	16.8	15.0	▲1.8	65.3	63.1	▲2.1	78.5	72.9	▲5.6	55.7	57.9	2.2	63.6	66.7	3.1	52.6	54.2	1.5	49.3	52.1	2.8	65.3	85.8	0.6	61.5	61.7	0.2
			女性	65.1	61.7	▲3.4	15.0	12.6	▲2.4	66.5	66.4	▲0.1	80.7	78.4	▲2.3	61.8	62.5	0.7	63.4	58.3	▲5.1	73.8	74.5	0.6	51.9	53.0	1.0	80.7	78.3	▲2.4	59.1	52.8	▲6.3
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	63.5	63.0	▲0.5	15.7	13.4	▲2.3	66.0	65.3	▲0.7	79.9	76.5	▲3.3	59.4	60.9	1.5	63.4	61.1	▲2.3	65.6	67.6	2.0	50.9	52.7	1.8	82.5	80.8	▲1.6	60.0	55.8	▲4.2
未受講群	一般校	-	男性	48.6	44.1	▲4.5	12.3	16.7	4.4	62.3	58.8	▲3.5	76.6	70.0	▲6.6	58.5	60.8	2.3	64.0	67.1	3.1	57.1	52.9	▲4.2	53.7	55.3	1.6	78.3	65.9	▲12.4	53.1	45.9	▲7.3
			女性	59.8	61.3	1.5	15.4	12.6	▲2.8	64.5	65.8	1.3	77.9	76.8	▲1.1	59.5	58.3	▲1.2	62.5	67.7	5.2	91.1	83.9	▲7.2	48.6	44.5	▲4.1	72.1	71.0	▲1.2	40.7	45.8	5.1
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	55.5	55.2	▲0.3	14.2	14.1	▲0.1	63.6	63.3	▲0.3	77.4	74.4	▲3.0	59.1	59.2	0.0	63.1	67.5	4.4	78.0	72.9	▲5.1	50.5	48.3	▲2.2	74.5	69.2	▲5.3	45.5	45.8	0.3
未受講群	専門学科	-	男性	16.7	30.0	13.3	11.1	5.8	▲5.3	57.6	52.0	▲5.8	70.0	70.0	0.0	60.0	49.3	▲10.7	71.1	76.0	4.9	88.9	100.0	11.1	60.0	60.0	0.0	68.9	52.0	▲16.9	35.6	20.0	▲15.6
			女性	78.6	50.0	▲28.6	12.9	15.6	3.1	71.4	67.5	▲3.9	74.3	80.0	5.7	60.0	66.7	6.7	60.0	65.0	5.0	85.7	100.0	14.3	54.3	65.0	10.7	80.0	70.0	▲10.0	48.6	70.0	21.4
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	43.8	38.9	▲4.9	11.7	10.2	▲1.5	63.8	58.9	▲4.9	71.9	74.4	2.6	60.0	57.0	▲3.0	66.3	71.1	4.9	87.5	100.0	12.5	57.5	62.2	4.7	73.8	60.0	▲13.8	41.3	42.2	1.0
未受講群	定時制	-	男性	56.8	50.0	▲6.8	13.3	7.7	▲5.5	68.6	61.4	▲7.2	79.5	78.6	▲0.9	59.1	63.8	4.7	67.3	57.1	▲10.1	68.2	85.7	17.5	50.0	51.4	1.4	82.7	85.7	3.0	50.0	60.0	10.0
			女性	67.1	80.6	13.5	13.0	8.1	▲4.9	63.2	76.7	13.5	75.3	82.2	7.0	58.4	64.8	6.4	60.5	71.1	10.6	81.6	61.1	▲20.5	52.1	63.3	11.2	75.8	75.6	▲0.2	52.1	46.7	▲5.4
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	63.3	72.0	8.7	13.1	8.0	▲5.1	65.2	72.4	7.2	76.8	81.2	4.4	58.7	64.5	5.9	63.0	67.2	4.2	76.7	68.0	▲8.7	51.3	60.0	8.7	78.3	78.4	0.1	51.3	50.4	▲0.9

定量調査の対象校の結果一覧(5)

本調査における対象校のアンケート結果は、以下の通りである。

学校名	学校属性	受講コース	属性	資質・能力の育成プロセス																									
				興味・関心			知識・理解			問題解決能力			将来設計能力			批判的思考力			リフレクション			自分事化			自己効力感				
				事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量		
愛知県内私立高等学校	進学校	アクティブラーニング	男性	43.6	46.9	▲3.3	39.6	35.2	▲4.4	66.6	65.9	▲0.7	72.3	74.8	2.5	69.7	74.4	4.7	79.6	78.8	▲0.8	71.2	73.8	2.6	68.6	73.1	4.5		
			女性	36.6	40.7	4.1	35.5	28.6	▲6.9	66.1	65.8	▲0.3	70.5	75.1	4.5	68.3	68.8	0.5	77.2	76.7	▲0.6	66.3	71.3	5.0	69.5	71.3	1.8		
			その他	31.7	31.4	▲0.2	37.5	28.6	▲8.9	66.7	67.6	1.0	70.0	71.4	1.4	68.9	69.5	0.6	81.7	75.7	▲6.0	66.7	57.1	▲9.5	63.3	70.0	6.7		
			全体	40.1	43.0	2.9	37.7	31.9	▲5.9	66.4	66.0	▲0.4	71.4	74.6	3.2	69.1	71.6	2.5	78.6	77.6	▲1.0	68.9	71.3	2.4	68.8	72.1	3.3		
鹿児島県内私立高等学校	進学校	アクティブラーニング	男性	42.0	45.0	3.0	46.0	40.8	▲5.2	63.7	63.6	▲0.2	68.4	73.0	4.6	66.7	71.1	4.4	76.4	77.3	0.9	61.6	68.9	7.0	70.7	9.1	63.2	74.7	11.5
			女性	34.7	44.4	9.7	39.0	55.6	16.6	64.5	65.2	0.7	74.1	73.7	▲0.4	69.8	76.3	6.5	76.2	78.9	2.7	63.5	67.4	3.9	66.5	78.5	12.0		
			その他	52.5	53.3	0.8	31.3	33.3	2.1	65.0	60.0	▲5.0	76.3	60.0	▲16.3	65.0	61.1	▲3.9	81.3	63.3	▲17.9	62.5	53.3	▲9.2	67.5	83.3	15.8		
			全体	39.6	45.6	6.0	40.7	46.4	5.8	64.3	63.9	▲0.4	72.2	72.1	▲0.2	68.1	72.4	4.3	76.9	76.7	▲0.2	62.7	67.6	4.9	65.4	77.1	11.8		
北海道内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	28.7	35.3	6.6	22.8	11.8	▲11.0	63.2	61.8	▲1.4	69.6	72.6	3.1	69.6	66.3	▲3.2	71.3	67.9	▲3.4	63.5	61.1	▲2.4	58.3	67.4	9.1		
			女性	22.4	20.0	▲2.4	14.7	20.0	5.3	60.8	63.1	2.3	75.3	73.3	▲2.0	65.1	67.6	2.5	74.1	68.7	▲5.5	63.5	66.7	3.1	65.9	77.3	11.5		
			その他	18.3	33.3	15.0	29.2	25.0	▲4.2	72.2	75.6	3.3	91.7	78.3	▲13.3	75.6	75.6	0.0	71.7	76.7	5.0	63.3	63.3	0.0	80.0	80.0	0.0		
			全体	25.0	29.3	4.2	20.7	16.9	▲3.8	63.5	64.3	0.9	74.6	73.8	▲0.8	68.7	68.2	▲0.5	72.4	69.5	▲2.9	63.5	63.5	0.0	63.9	73.0	9.1		
鹿児島県内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	60.0	52.9	▲7.1	18.8	14.3	▲4.5	58.3	63.8	5.5	47.5	62.9	15.4	65.0	73.3	8.3	55.0	72.9	17.9	50.0	54.3	4.3	45.0	51.4	6.4		
			女性	31.1	36.7	5.6	25.0	22.2	▲2.8	64.4	60.7	▲3.7	70.0	73.3	3.3	61.5	66.7	5.2	57.8	64.4	6.7	46.7	48.9	2.2	60.0	73.3	13.3		
			その他	40.0	36.7	▲3.3	0.0	25.0	25.0	0.0	66.7	62.2	▲4.4	80.0	80.0	0.0	56.7	64.4	7.8	75.0	63.3	▲11.7	70.0	60.0	▲10.0	60.0	60.0	0.0	
			全体	40.0	42.6	2.6	20.0	19.7	▲0.3	63.1	62.1	▲1.0	65.3	70.5	5.2	61.8	68.8	7.0	59.3	67.4	8.0	50.7	52.6	2.0	56.0	63.2	7.2		
広島県内公立高等学校	一般校	アクティブラーニング	男性	40.0	40.0	0.0	20.3	21.7	1.4	67.9	68.4	0.5	84.4	82.7	▲1.7	81.7	76.4	▲5.2	81.9	81.3	▲0.5	82.5	78.7	▲3.8	75.0	73.3	▲1.7		
			女性	35.0	38.2	3.2	12.5	22.7	10.2	65.7	63.6	▲2.1	76.4	73.6	▲2.8	65.7	67.3	1.6	68.6	71.8	3.2	65.7	69.1	3.4	68.6	70.9	2.3		
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			全体	37.7	39.2	1.6	16.7	22.1	5.4	66.9	66.4	▲0.5	80.7	78.8	▲1.8	74.2	72.6	▲1.7	75.7	77.3	1.6	74.7	74.6	▲0.1	72.0	72.3	0.3		
広島県内公立高等学校	専門学科	アクティブラーニング	男性	42.7	43.7	1.0	30.8	30.5	▲0.3	66.8	67.1	0.3	82.3	84.0	1.6	74.1	76.3	2.2	79.7	82.6	2.9	76.7	80.6	3.9	75.9	82.1	6.1		
			女性	36.3	40.7	4.4	29.8	25.9	▲3.9	65.6	66.0	0.4	81.6	82.3	0.7	73.9	74.4	0.5	76.7	76.1	▲0.6	75.2	78.1	2.9	70.1	75.7	5.5		
			その他	31.1	30.0	▲1.1	13.9	12.5	▲1.4	63.0	67.5	4.5	68.3	75.0	6.7	67.0	70.8	3.8	72.8	75.0	2.2	71.1	70.0	▲1.1	61.1	77.5	16.4		
			全体	38.3	41.3	3.1	29.2	27.1	▲2.1	65.9	66.5	0.6	81.0	82.6	1.6	73.5	74.9	1.4	77.5	78.5	1.0	75.5	78.7	3.2	71.6	78.1	6.5		
北海道内公立高等学校	進学校	聴講集中	男性	42.4	42.7	0.3	25.6	22.8	▲2.9	65.8	65.6	▲0.3	75.3	74.8	▲0.5	72.9	71.9	▲1.0	77.1	75.5	▲1.6	70.3	74.3	4.1	73.0	70.4	▲2.6		
			女性	36.4	34.7	▲1.7	22.6	19.3	▲3.3	66.4	65.7	▲0.7	79.8	77.7	▲2.1	75.4	74.1	▲1.2	77.0	74.1	▲2.9	69.8	69.7	▲0.1	68.9	71.6	2.7		
			その他	44.5	31.1	▲13.5	11.4	15.8	4.4	51.5	64.2	12.7	43.6	68.9	25.3	49.1	71.6	22.5	59.1	71.1	12.0	43.6	72.6	29.0	61.8	70.5	8.7		
			全体	39.5	37.6	▲1.9	23.2	20.3	▲2.9	65.2	65.5	0.2	75.6	75.4	▲0.2	72.7	72.9	0.2	76.0	74.3	▲1.6	68.4	72.0	3.6	70.3	71.0	0.7		
宮城県内公立高等学校	一般校	聴講集中	男性	32.2	36.0	3.8	12.0	23.4	11.4	62.7	67.9	5.2	72.6	80.8	8.2	73.1	78.2	5.1	74.1	81.5	7.4	73.3	79.2	5.8	77.8	75.8	▲1.9		
			女性	30.7	28.9	▲1.8	13.8	13.3	▲0.5	66.0	66.1	0.1	74.5	80.4	5.9	75.4	78.0	2.6	76.6	78.7	2.2	75.9	73.6	▲2.2	74.5	73.2	▲1.3		
			その他	25.0	35.7	10.7	6.3	14.3	8.0	62.5	61.9	▲0.6	63.8	70.0	6.2	64.2	73.3	9.2	63.8	75.7	12.0	62.5	68.6	6.1	62.5	74.3	11.8		
			全体	30.6	32.7	2.1	12.1	18.1	6.0	64.2	66.7	2.5	72.3	79.9	7.6	73.0	77.8	4.8	73.9	79.8	5.9	73.1	75.9	2.8	74.4	74.5	0.1		
広島県内公立高等学校B	一般校	聴講集中	男性	30.0	31.4	1.4	29.2	18.2	▲11.0	65.2	64.8	▲0.4	72.9	74.1	1.2	71.6	70.8	▲0.8	72.9	71.8	▲1.0	74.8	68.6	▲6.1	73.3	70.0	▲3.3		
			女性	29.8	30.7	0.9	16.2	20.3	4.1	63.7	66.7	2.9	78.4	77.1	▲1.3	72.4	72.7	0.3	73.0	75.4	2.4	73.3	72.2	▲1.1	67.7	68.1	0.4		
			その他	36.3	46.7	10.4	18.8	8.3	▲10.4	72.5	60.0	▲12.5	85.0	60.0	▲25.0	83.3	60.0	▲23.3	82.5	56.7	▲25.8	75.0	60.0	▲15.0	65.0	60.0	▲5.0		
			全体	30.3	31.4	1.1	21.5	19.1	▲2.4	64.4	65.7	1.4	76.0	75.4	▲0.6	72.1	71.5	▲0.6	72.9	73.4	0.5	73.3	70.4	▲2.9	69.0	68.7	▲0.3		

定量調査の対象校の結果一覧(6)

本調査における対象校のアンケート結果は、以下の通りである。

学校名	学校属性	受講コース	属性	資質・能力の育成プロセス																								
				興味・関心			知前・理解			問題解決能力			将来設計能力			批判的思考力			リフレクション			自分事化			自己効力感			
				事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	事前	事後	変化量	
北海道内公立高等学校	専門学科	聴講集中	男性	33.7	32.8	▲0.9	18.3	22.5	4.2	66.2	64.2	▲2.0	76.8	74.3	▲2.6	75.1	73.5	▲1.6	79.5	75.5	▲4.0	74.1	75.5	1.4	68.8	76.5	7.7	
			女性	37.5	17.5	▲20.0	18.8	25.0	6.3	58.3	65.0	6.7	82.5	75.0	▲7.5	76.7	70.0	▲6.7	67.5	82.5	15.0	65.0	70.0	5.0	70.0	65.0	▲5.0	
			その他	150.0	40.0	#####	25.0	0.0	▲25.0	200.0	66.7	#####	230.0	80.0	#####	233.3	80.0	#####	240.0	80.0	#####	240.0	80.0	#####	220.0	80.0	#####	
			全体	36.5	31.6	▲5.0	18.5	22.2	3.7	68.4	64.3	▲4.1	80.7	74.4	▲6.2	78.7	73.3	▲5.4	82.0	76.2	▲5.7	77.0	75.1	▲1.8	72.2	75.6	3.4	
愛媛県内公立高等学校1年生	専門学科	聴講集中	男性	39.3	33.6	▲5.8	30.0	30.4	0.4	63.6	65.2	1.7	71.3	71.4	0.1	75.6	69.0	▲6.5	75.3	70.7	▲4.6	80.0	72.9	▲7.1	70.7	71.4	0.8	
			女性	43.6	44.2	0.5	20.5	27.1	6.6	63.0	63.6	0.6	65.0	66.3	1.3	67.3	71.1	3.8	74.5	69.6	▲4.8	66.4	72.5	6.1	63.6	75.8	12.2	
			その他	26.7	30.0	3.3	8.3	0.0	▲8.3	64.4	66.7	2.2	70.0	80.0	10.0	68.9	80.0	11.1	70.0	80.0	10.0	73.3	80.0	6.7	66.7	80.0	13.3	
			全体	40.8	40.0	▲0.7	23.1	27.6	4.4	63.3	64.3	0.9	67.8	68.5	0.7	70.5	70.6	0.1	74.5	70.3	▲4.2	72.0	72.8	0.8	66.5	74.4	7.9	
愛媛県内公立高等学校2年生	専門学科	聴講集中	男性	33.6	45.5	11.8	29.5	13.6	▲15.9	64.8	65.5	0.6	73.6	67.3	▲6.4	70.9	64.2	▲6.7	70.0	73.6	3.6	69.1	69.1	0.0	72.7	70.9	▲1.8	
			女性	33.2	29.5	▲3.7	28.6	28.6	0.0	66.7	61.6	▲5.1	68.9	69.5	0.6	71.7	70.5	▲1.2	75.4	72.4	▲3.0	68.6	71.4	2.9	68.6	73.3	4.8	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	33.3	35.0	1.7	28.8	23.4	▲5.4	66.2	62.9	▲3.2	70.3	68.8	▲1.5	71.5	68.3	▲3.1	73.8	72.8	▲1.0	68.7	70.6	1.9	69.7	72.5	2.8	
愛媛県内公立高等学校3年生	専門学科	聴講集中	男性	35.0	33.8	▲1.3	28.1	34.4	6.3	67.5	63.3	▲4.2	76.3	68.8	▲7.5	74.2	70.8	▲3.3	72.5	75.0	2.5	72.5	75.0	2.5	80.0	77.5	▲2.5	
			女性	35.4	34.2	▲1.2	29.8	23.1	▲6.7	66.2	67.2	1.0	77.3	78.5	1.2	75.4	74.6	▲0.8	76.2	76.2	0.0	77.7	79.2	1.5	75.4	70.8	▲4.6	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	35.3	34.1	▲1.2	29.4	25.7	▲3.7	66.5	66.3	▲0.2	77.1	76.2	▲0.9	75.1	73.7	▲1.4	75.3	75.9	0.6	76.5	78.2	1.8	76.5	72.4	▲4.1	
大阪府内私立高等学校	定時制等	聴講集中	男性	26.0	34.6	8.6	15.0	23.1	8.1	59.3	59.0	▲0.4	75.0	66.2	▲8.8	74.0	65.6	▲8.4	67.0	63.1	▲3.9	62.0	66.2	4.2	50.0	55.4	5.4	
			女性	19.2	20.9	1.7	12.5	2.3	▲10.2	59.4	63.6	4.2	62.5	71.8	9.3	67.2	69.1	1.9	65.0	67.3	2.3	50.0	54.5	4.5	48.3	56.4	8.0	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			全体	22.3	32.1	9.8	13.6	13.5	▲0.1	59.4	66.4	7.0	68.2	71.3	3.1	70.3	70.6	0.3	65.9	72.5	6.6	55.5	65.8	10.4	49.1	57.5	8.4	
富山県内公立高等学校	定時制等	聴講集中	男性	70.0	80.0	10.0	25.0	50.0	25.0	53.3	66.7	13.3	70.0	80.0	10.0	80.0	86.7	6.7	40.0	60.0	20.0	20.0	60.0	40.0	20.0	60.0	40.0	
			女性	34.6	26.4	▲8.3	26.9	36.4	9.4	63.1	67.3	4.2	72.3	71.8	▲0.5	70.8	69.7	▲1.1	69.2	70.0	0.8	69.2	58.2	▲11.0	72.3	67.3	▲5.0	
			その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
			全体	34.7	28.5	▲6.2	25.0	34.6	9.6	58.2	62.1	3.8	67.3	66.9	▲0.4	66.7	65.6	▲1.0	62.7	63.8	1.2	61.3	53.8	▲7.5	64.0	61.5	▲2.5	
未受講群	進学校	-	男性	44.6	44.8	0.2	36.8	42.7	5.9	62.7	63.5	0.8	71.7	66.9	▲4.8	72.3	69.0	▲3.3	74.2	74.6	0.4	68.3	▲7.7	73.7	70.4	▲3.3		
			女性	40.0	37.9	▲2.1	32.9	31.4	▲1.5	65.5	63.1	▲2.4	73.5	72.7	▲0.8	72.2	69.4	▲2.8	76.5	73.2	▲3.3	70.5	69.6	▲0.9	69.5	68.7	▲0.8	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			全体	41.8	40.2	▲1.6	34.4	35.2	0.8	64.4	63.2	▲1.2	72.8	70.7	▲2.1	72.2	69.2	▲3.0	75.6	73.7	▲1.9	69.5	67.5	▲2.0	71.1	69.3	▲1.8	
未受講群	一般校	-	男性	36.9	34.7	▲2.2	30.0	27.9	▲2.1	58.9	59.6	0.8	64.6	62.9	▲1.6	63.8	64.3	0.5	65.4	61.8	▲3.7	61.1	60.0	▲1.1	66.9	57.6	▲9.2	
			女性	33.2	34.8	1.6	17.9	23.4	5.5	65.0	64.3	▲0.7	73.8	66.5	▲7.3	68.2	68.6	0.4	72.3	72.9	0.6	64.6	64.5	▲0.1	61.1	63.2	2.2	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			全体	34.6	34.8	0.2	22.5	25.0	2.5	62.6	62.6	0.0	70.2	65.2	▲5.0	66.5	67.1	0.6	69.7	69.0	▲0.7	63.3	62.9	▲0.4	63.3	61.3	▲2.0	
未受講群	専門学科	-	男性	35.6	40.0	4.4	22.2	15.0	▲7.2	62.2	58.7	▲3.6	57.8	58.0	0.2	57.0	74.7	17.6	64.4	68.0	3.6	57.8	60.0	2.2	57.8	64.0	6.2	
			女性	32.9	17.5	▲15.4	25.0	25.0	0.0	62.9	60.0	▲2.9	78.6	65.0	▲13.6	67.6	56.7	▲11.0	72.9	60.0	▲12.9	62.9	60.0	▲2.9	65.7	55.0	▲10.7	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			全体	34.4	30.0	▲4.4	23.4	19.4	▲4.0	62.5	59.3	▲3.2	66.9	61.1	▲5.8	61.7	66.7	5.0	68.1	64.4	▲3.7	60.0	60.0	0.0	61.3	60.0	▲1.2	
未受講群	定時制	-	男性	42.3	38.6	▲3.7	36.4	50.0	13.6	64.5	61.9	▲2.6	65.9	65.7	▲0.2	69.1	71.4	2.3	74.1	74.3	0.2	61.8	68.6	6.8	70.9	74.3	3.4	
			女性	32.4	41.1	8.7	28.9	23.6	▲5.3	66.0	64.4	▲1.5	64.7	66.7	1.9	64.9	62.6	▲2.3	70.3	66.7	▲3.6	60.0	61.1	1.1	60.0	53.3	▲6.7	
			その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			全体	36.0	40.4	4.4	31.7	31.0	▲0.7	65.4	63.7	▲1.7	65.2	66.4	1.2	66.4	65.1	▲1.4	71.7	68.8	▲2.9	60.7	63.2	2.5	64.0	59.2	▲4.8	

2022年度社会的インパクト評価の取り組みフェーズ

2022年度社会的インパクト評価は、以下のフェーズで実施した。

フェーズ	実施内容	成果物	スケジュール
社会的インパクト評価の可能性の検討	<ul style="list-style-type: none">国内外での先行研究や、競合他社の関連する取り組みについて調査を実施、金融経済教育による社会的インパクトを整理御社提供資料と関係者へのヒアリングから、事業が提供する社会的価値を定義、社会的インパクトの評価モデルを構築する	社会的インパクト評価モデル	2022年4月～ 2022年6月
社会的インパクト評価実施	<ul style="list-style-type: none">調査票とインタビューによって、特定された社会的インパクトについてデータを収集し、分析する	社会的インパクト評価	2022年7月～ 2023年2月
社会的インパクト志向の事業構築	<ul style="list-style-type: none">社会的インパクト評価の結果をステークホルダーと共有するための報告書を作成評価結果を踏まえ、事業が目指す社会的インパクトを創出するプログラム案を作成	社会的インパクト評価報告書	2023年2月～ 2023年3月